

参 考 资 料

参考資料 1 開発行為等が景観等へ与える影響のシミュレーション

属性	観察・評価の地点	観察指標	影響の程度	阻害例（景観シミュレーション）
資産全体と一体の良好な環境	⑥ 高館から東稲山、北上川方向	資産全体の周辺環境	レベル4（重大）：世界遺産を中心として、平泉の歴史・文化に対する来訪者の理解を大きく阻害する変更	東稲山に連なる稜線上への大規模な風力発電機の建設、土取り等による山体の地形改変、大規模な太陽光パネルの建設、携帯電話基地局の設置など、世界遺産平泉の成立・継承を物語る歴史的・文化的環境を来訪者が感じ取ることが不可能となる。
			レベル3（相当程度）：世界遺産を中心として、平泉の歴史・文化に対する来訪者の理解に何らかの阻害が生じる変更	東稲山に連なる稜線上に大規模な風力発電機が建設され、また太陽光パネルが建設されることにより遊水地の相当量の部分が覆われるなど、世界遺産平泉の成立・継承を物語る歴史的・文化的環境を来訪者が感じ取るうえで何らかの阻害が生じる。
			レベル2（小規模）：世界遺産を中心として、平泉の歴史・文化に対する来訪者の理解への阻害が気になる程度の変更	太陽光パネルが建設されることにより遊水地の一部が覆われるなど、世界遺産平泉の成立・継承を物語る歴史的・文化的環境を来訪者が感じ取るうえでの阻害が気になる。
			レベル1（無視可能）：世界遺産を中心として、平泉の歴史・文化に対する来訪者の理解への阻害に気づかない程度の変更	太陽光パネルが建設されるが、規模が小さいため、世界遺産平泉の成立・継承を物語る歴史的・文化的環境を来訪者が感じ取るうえでの阻害に気づかない。
総括的属性	⑭ 高館橋から見る北上川と高館	金鶏山と4つの寺院・浄土庭園の複合体（地形・樹叢、寺院境内の地形・樹叢）	レベル4（重大）：金鶏山と4つの寺院・浄土庭園から成る複合体の全体を大きく阻害する変更	比較的近傍の稜線上に風力発電機や携帯電話基地局が建設され、金鶏山を隠すように大規模で派手な屋外広告物や携帯電話基地局が建設されるなど、金鶏山と4つの寺院・浄土庭園から成る複合体の全体に対して、視認が不可能となる。
			レベル3（相当程度）：金鶏山と4つの寺院から成る複合体の全体に対して何らかの阻害が生じる変更	遠方の稜線上に大規模な風力発電機が建設され、大規模で派手な屋外広告物や携帯電話基地局が建設されるなど、金鶏山と4つの寺院から成る複合体の全体に対して、視認が困難となる。
			レベル2（小規模）：金鶏山と4つの寺院から成る複合体の全体に対して阻害が気になる程度の変更	屋外広告物（規模が小さく、落ち着いた色調のもの）や携帯電話基地局が追加的に多数建設される懸念を引き起こし、金鶏山と4つの寺院から成る複合体の全体に対して、視認に影響を及ぼす。
			レベル1（無視可能）：金鶏山と4つの寺院から成る複合体の全体に対して阻害に気づかない程度の変更	屋外広告物（規模が小さく、落ち着いた色調のもの）や携帯電話基地局が建設されるが、数が少ないなど、金鶏山と4つの寺院から成る複合体の全体に対して、視認に影響を及ぼさない。
属性1：3つの浄土庭園、金鶏山、双方のつながり	⑩ 無量光院跡から金鶏山方面	金鶏山（地形（山体・山頂）、山を覆う樹木）	レベル4（重大）：3つの浄土庭園と金鶏山との間の視覚的つながりを大きく阻害する変更	金鶏山への軸線上に派手な屋外広告物や携帯電話基地局が建設され、金鶏山山頂付近が見えなくなるなど、3つの浄土庭園と金鶏山との間の視覚的つながりが視認不可能となる。
			レベル3（相当程度）：3つの浄土庭園と金鶏山との間の視覚的つながりを阻害する変更	金鶏山への軸線からは外れているが、背景となる山・丘陵のスカイラインを大きく超える規模の屋外広告物や携帯電話基地局が建設され、金鶏山の一部が見えなくなるなど、3つの浄土庭園と金鶏山との間の視覚的つながりが視認困難となる。
			レベル2（小規模）：3つの浄土庭園と金鶏山との間の視覚的つながりへの阻害が気になる程度の変更	金鶏山への軸線からは外れているが、屋外広告物や携帯電話基地局が建設され、金鶏山への眺望阻害が気になるなど、3つの浄土庭園と金鶏山との間の視覚的つながりに影響を及ぼす。
			レベル1（無視可能）：3つの浄土庭園と金鶏山との間の視覚的つながりへの阻害に気づかない程度の変更	屋外広告物や携帯電話基地局が建設されるが、規模が小さく数も少なく、落ち着いた色彩であるため、阻害が気づかれにくいなど、3つの浄土庭園と金鶏山との間の視覚的つながりに影響を及ぼさない。
属性2：理想郷としての浄土庭園とその周辺環境	⑰ 観自在王院庭園から東方面	庭園（地形、樹叢・樹木）、外周（地形、樹叢・樹木）、その他（音、匂い、特に留意すべき視覚、聴覚、嗅覚の対象）、無形の要素（宗教儀式等）	レベル4（重大）：各々の浄土庭園において、仏国土（浄土）の観想に不可欠の展望・静けさ・宗教行為・伝統芸能等を大きく阻害する変更	東稲山等のスカイラインを超える規模の派手な屋外広告物や携帯電話基地局が建設され、仏国土（浄土）の観想に必要な展望を大きく阻害する。
			レベル3（相当程度）：各々の浄土庭園において、仏国土（浄土）の観想に不可欠の展望・静けさ・宗教行為・伝統芸能等を阻害する変更	派手な屋外広告物や携帯電話基地局（但し、東稲山等のスカイラインは超えない）が建設され、仏国土（浄土）の観想に必要な展望を阻害する。
			レベル2（小規模）：各々の浄土庭園において、仏国土（浄土）の観想に不可欠の展望・静けさ・宗教行為・伝統芸能等への阻害が気になる程度の変更	屋外広告物や携帯電話基地局（家並みより低い小規模なもの）が追加的に多数建設される懸念を引き起こし、仏国土（浄土）の観想に必要な展望への阻害が気になる。
			レベル1（無視可能）：各々の浄土庭園において、仏国土（浄土）の観想に不可欠の展望・静けさ・宗教行為・伝統芸能等への阻害に気づかない程度の変更	屋外広告物や携帯電話基地局（家並みより低い小規模なもの）が建設されるが、規模が小さく数も少なく、落ち着いた色彩であるため、仏国土（浄土）の観想に必要な展望への阻害に気づかない。
	⑰ 観自在王院庭園から南方面	庭園（地形、樹叢・樹木）、外周（地形、樹叢・樹木）、その他（音、匂い、特に留意すべき視覚、聴覚、嗅覚の対象）、無形の要素（宗教儀式等）	レベル4（重大）：各々の浄土庭園において、仏国土（浄土）の観想に不可欠の展望・静けさ・宗教行為・伝統芸能等を大きく阻害する変更	スカイラインを超える規模の派手な屋外広告物や携帯電話基地局が建設され、仏国土（浄土）の観想に必要な展望を大きく阻害する。
			レベル3（相当程度）：各々の浄土庭園において、仏国土（浄土）の観想に不可欠の展望・静けさ・宗教行為・伝統芸能等を阻害する変更	派手な屋外広告物や携帯電話基地局（但し、東稲山等のスカイラインは超えない）が建設され、仏国土（浄土）の観想に必要な展望を阻害する。
			レベル2（小規模）：各々の浄土庭園において、仏国土（浄土）の観想に不可欠の展望・静けさ・宗教行為・伝統芸能等への阻害が気になる程度の変更	屋外広告物や携帯電話基地局（家並みより低い小規模なもの）が追加的に多数建設される懸念を引き起こし、仏国土（浄土）の観想に必要な展望への阻害が気になる。
			レベル1（無視可能）：各々の浄土庭園において、仏国土（浄土）の観想に不可欠の展望・静けさ・宗教行為・伝統芸能等への阻害に気づかない程度の変更	屋外広告物や携帯電話基地局（家並みより低い小規模なもの）が建設されるが、規模が小さく数も少なく、落ち着いた色彩であるため、仏国土（浄土）の観想に必要な展望への阻害に気づかない。

属性	資産全体と一体の良好な環境
観察・評価の地点	⑥ 高館から東稲山、北上川方向
観察指標	資産全体の周辺環境

【註】 65 ページにおいても言及したとおり、開発事業等の大半は既に景観条例により視覚的な観点から規制されていることから、80～89 ページのシミュレーション写真には現実的に発生し得ない施設の設置の事例を含んではいるが、あくまで影響のレベルをイメージとして示したものであることを理解されたい。なお、例示はあくまで部分的なものであり、想定できる事例を網羅的に示したものではないことについても留意されたい。

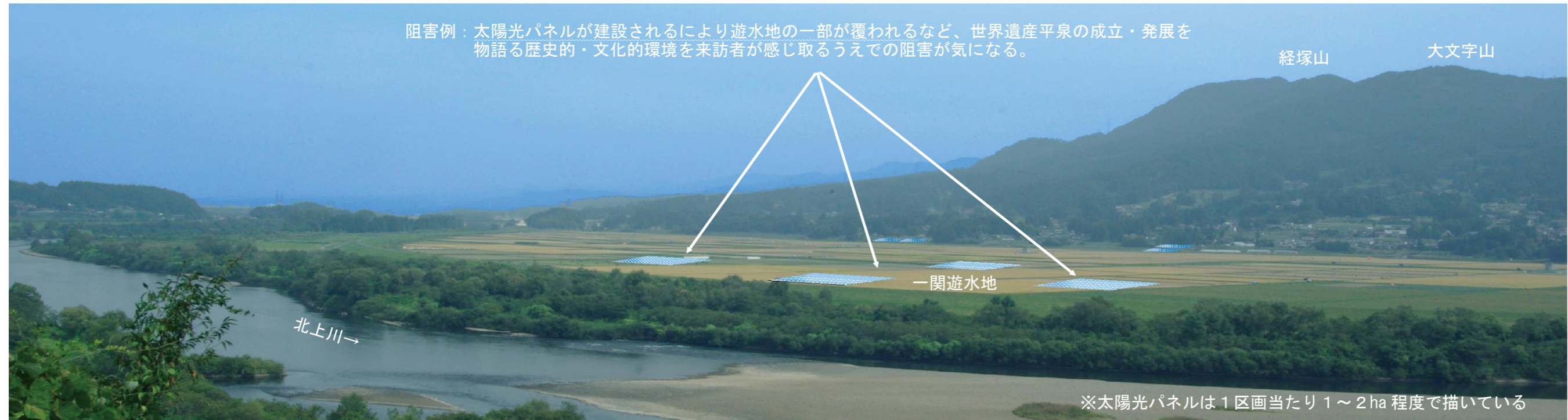
【レベル4】世界遺産を中心として、平泉の歴史・文化に対する来訪者の理解を大きく阻害する変更



【レベル3】世界遺産を中心として、平泉の歴史・文化に対する来訪者の理解に何らかの阻害が生じる変更



【レベル2】世界遺産を中心として、平泉の歴史・文化に対する来訪者の理解への阻害が気になる程度の変更

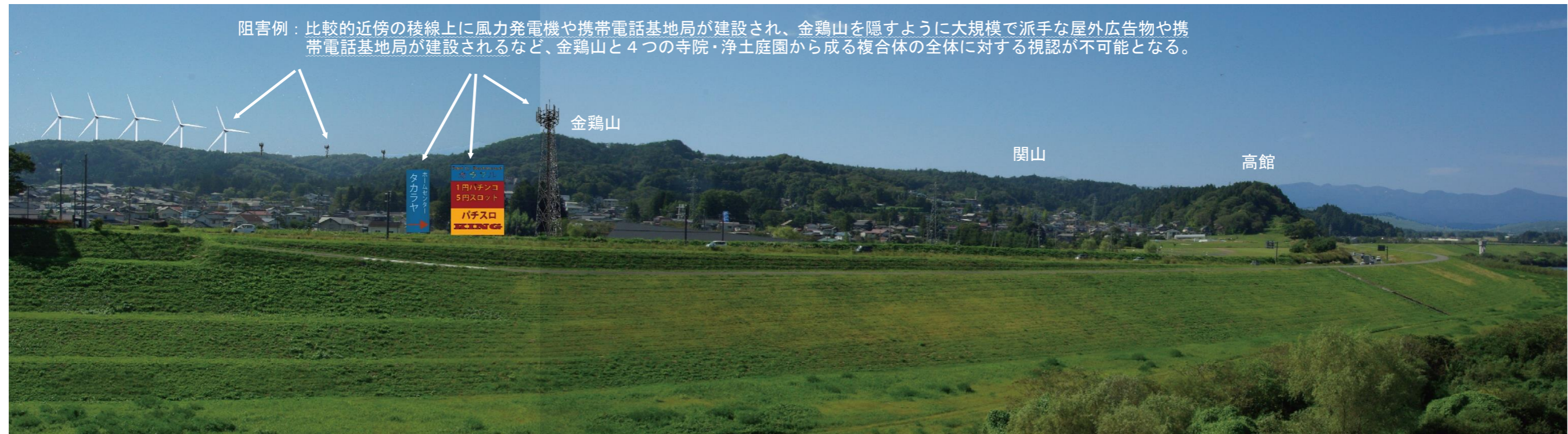


【レベル1】世界遺産を中心として、平泉の歴史・文化に対する来訪者の理解への阻害に気づかない程度の変更



属性	総括的属性
観察評価の地点	⑭ 高館橋から見る北上川と高館
観察指標	金鷄山と4つの寺院・浄土庭園の複合体（地形・樹叢、寺院境内の地形・樹叢）

【レベル4】金鷄山と4つの寺院・浄土庭園から成る複合体の全体を大きく阻害する変更



【レベル3】金鷄山と4つの寺院・浄土庭園から成る複合体の全体に対して、何らかの阻害が生じる変更



【レベル2】金鷄山と4つの寺院・浄土庭園から成る複合体の全体への阻害が気になる程度の変更

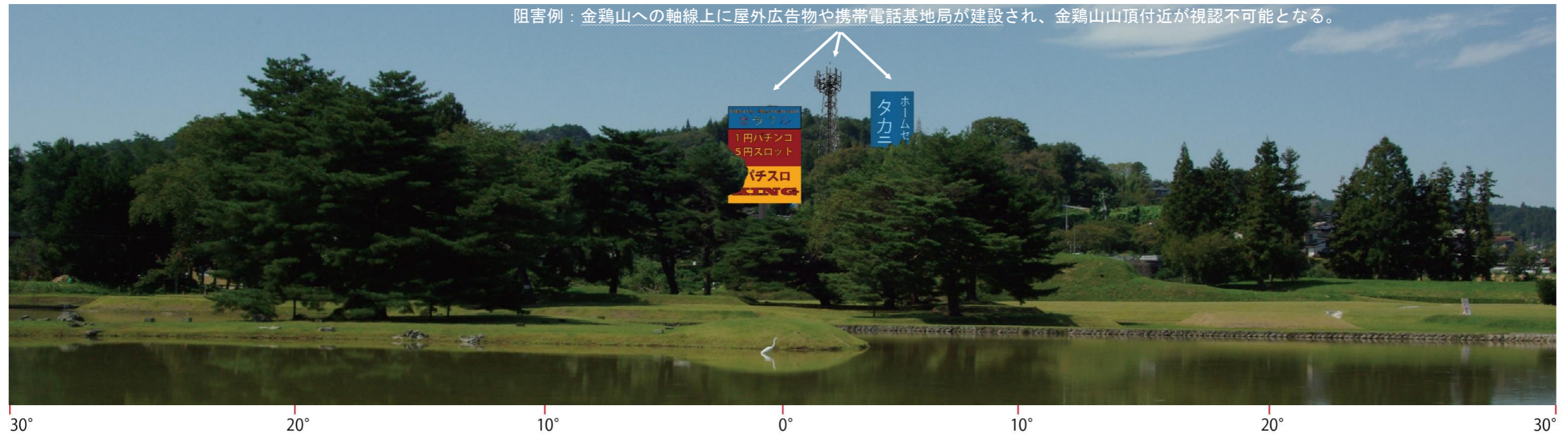


【レベル1】金鷄山と4つの寺院・浄土庭園から成る複合体の全体への阻害に気づかない程度の変更



属性	属性1：3つの浄土庭園、金鷄山、双方のつながり
観察・評価の地点	⑩ 無量光院跡から金鷄山方面
観察指標	金鷄山（地形（山体・山頂）、山を覆う樹木）

【レベル4】 3つの浄土庭園と金鷄山との間の視覚的つながりを大きく阻害する変更



【レベル3】 3つの浄土庭園と金鷄山との間の視覚的つながりに何らかの阻害を生ずる変更



【レベル2】 3つの浄土庭園と金鷄山との間の視覚的なつながりへの障害が気になる程度の変更



【レベル1】 3つの浄土庭園と金鷄山との間の視覚的なつながりへの障害が気づかれない程度の変更



属性	属性2：理想郷としての浄土庭園とその周辺環境
観察・評価の地点	① 観自在王院庭園から東方面
観察指標	庭園（地形、樹叢・樹木）、外周（地形、樹叢・樹木）、その他（音、匂い、特に留意すべき視覚、聴覚、嗅覚の対象）、無形の要素（宗教儀式等）

【レベル4】各々の浄土庭園において、仏国土（浄土）の観想に不可欠の展望・静けさ・宗教行為・伝統芸能等を大きく阻害する変更



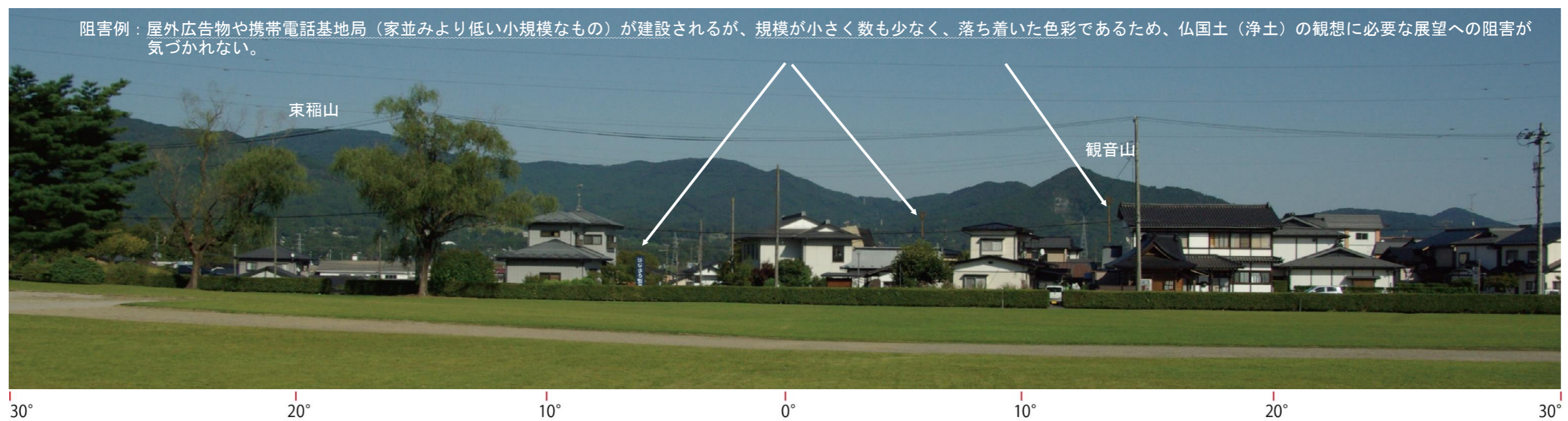
【レベル3】各々の浄土庭園において、仏国土（浄土）の観想に不可欠の展望・静けさ・宗教行為・伝統芸能等を阻害する変更



【レベル2】各々の浄土庭園において、仏国土（浄土）の観想に不可欠の展望・静けさ・宗教行為・伝統芸能等への阻害が気になる程度の変更

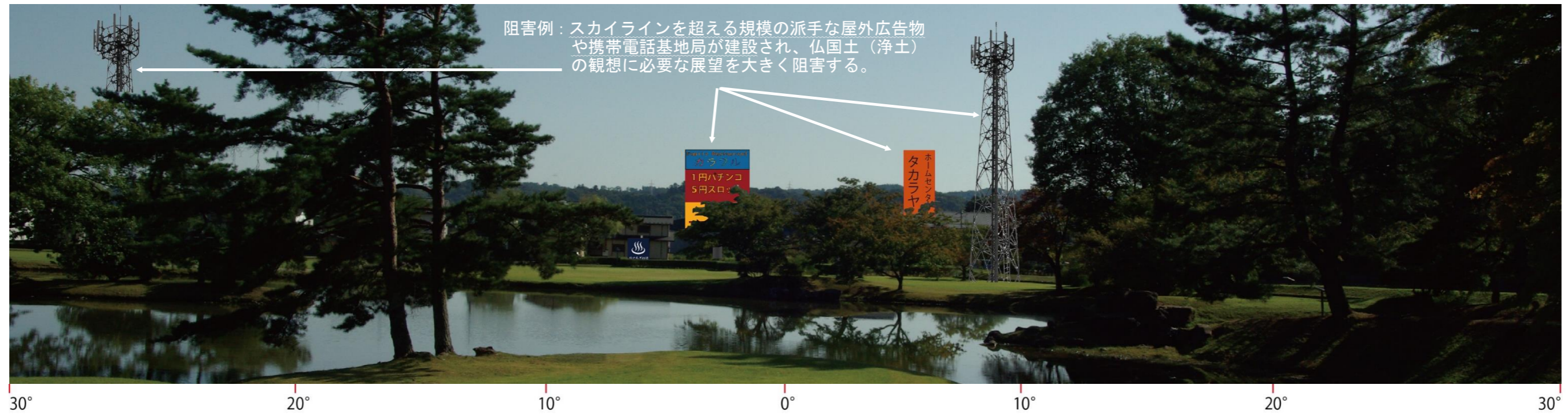


【レベル1】各々の浄土庭園において、仏国土（浄土）の観想に不可欠の展望・静けさ・宗教行為・伝統芸能等への阻害が気づかれない程度の変更

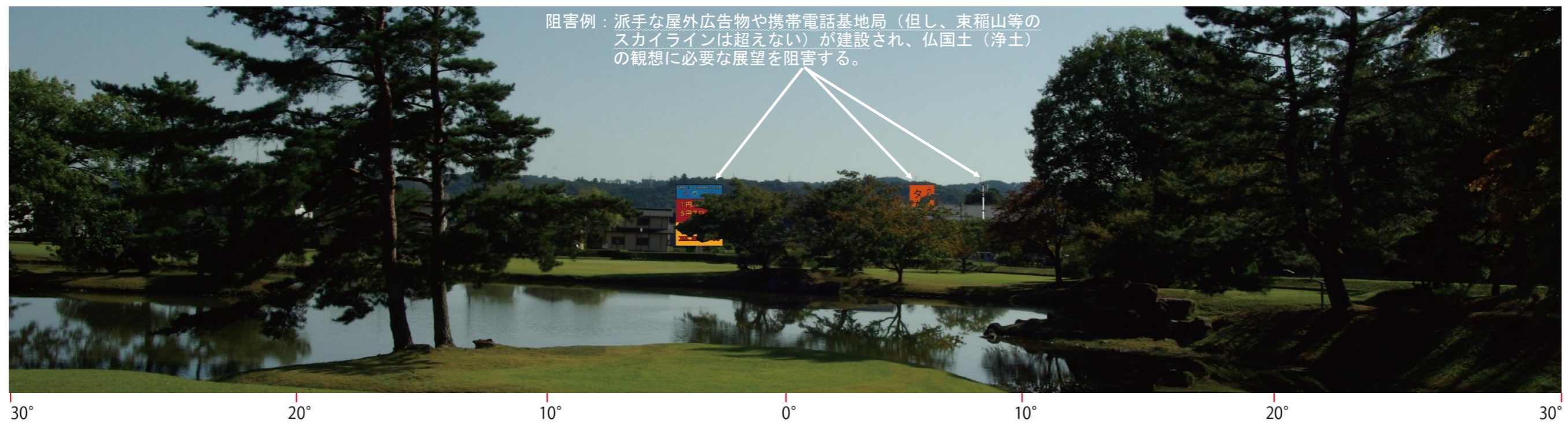


属性	属性2：理想郷としての浄土庭園とその周辺環境
観察・評価の地点	⑪ 観自在王院庭園から南方面
観察指標	庭園（地形、樹叢・樹木）、外周（地形、樹叢・樹木）、その他（音、匂い、特に留意すべき視覚、聴覚、嗅覚の対象）、無形の要素（宗教儀式等）

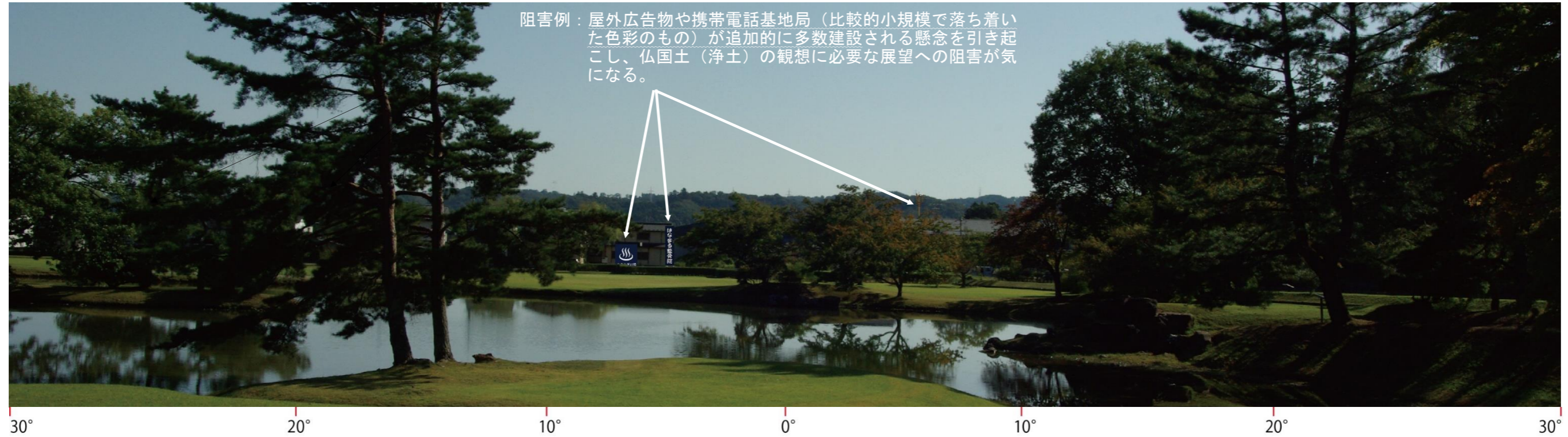
【レベル4】各々の浄土庭園において、仏国土（浄土）の観想に不可欠の展望・静けさ・宗教行為・伝統芸能等を大きく阻害する変更



【レベル3】各々の浄土庭園において、仏国土（浄土）の観想に不可欠の展望・静けさ・宗教行為・伝統芸能等を阻害する変更



【レベル2】各々の浄土庭園において、仏国土（浄土）の観想に不可欠の展望・静けさ・宗教行為・伝統芸能等への阻害が気になる程度の変更



【レベル1】各々の浄土庭園において、仏国土（浄土）の観想に不可欠の展望・静けさ・宗教行為・伝統芸能等への阻害が気づかれない程度の変更



参考資料2 これまで実施した HIA の実績

これまでの「平泉」における HIA の実績は下表のとおりである。なお、表中No.1 の HIA 実績については、結果及び資料を本報告書内に掲載した（91 ページ以降を参照されたい）。

なお本表では、本書に照らして OUV の属性との関係について付記している。

○ HIA 実績一覧（平成 23（2011）～平成 30（2018）年度）

No.	実施年	事業内容	事業主体	事業概要	OUV の属性との関係	結果
1	H23 (2011)	県道中尊寺通り 道路改良等	岩手県	道路改良 電線地中化等	属性 2	地下遺構、景観に配慮の上、事業を実施。
2	H23 (2011)	県道花巻衣川線 道路新設	岩手県	道路新設 道路改良	資産全体と一体の 良好な環境	影響なし
3	H23 (2011)	奥州市道衣川橋 六道線	奥州市	道路改良	総括的属性	影響なし
4	H23 (2011)	奥州市道田中上 野線	奥州市	道路改良	総括的属性	影響なし
5	H24 (2012)	白鳥地区堤防建 設	国交省	堤防建設	資産全体と一体の 良好な環境	協議継続中
6	H26 (2014)	衣川携帯基地局 設置	民間	携帯電話鉄塔 の設置	資産全体と一体の 良好な環境 総括的属性	事業計画の変更。
7	H26 (2014)	道の駅平泉建設	平泉町 国交省	道の駅建設	総括的属性	景観に配慮のうえ、事業実施
8	H27 (2015)	平泉スマート IC 新設	民間 平泉町	スマート IC 建 設	資産全体と一体の 良好な環境	協議継続中
9	H28 (2016)	中尊寺仏堂改修	民間	仏堂の増改築	属性 2	地下遺構、景観に配慮の上、事業実施
10	H30 (2018)	「平泉の文化遺産」ガイダンス建設	岩手県	ガイダンス施 設の建設	総括的属性	協議継続中
参 考	H27 (2015)	束稲山風力発電 施設建設	民間	風力発電施設 の建設	資産全体と一体の 良好な環境	事業者の理解により 取りやめ

○ 過去のHIAの例（平成23（2011）年度実施）

「県道中尊寺中尊寺通り」の道路改良事業の遺産影響評価（平成23（2011）年度実施）の結果に係る文書を転載したものである。また、本件は本報告書の61ページに記載した「観察・評価の地点 No.⑩：無量光院跡」に係るものであることを付記する。

【結果】

平成24年3月15日

岩手県世界遺産保存活用推進協議会長 様

平泉遺跡群調査整備指導委員会

委員長 田辺 征夫

「平泉－仏国土（浄土）を表す建築・庭園及び考古学的遺跡群」に係る遺産影響評価結果について（報告）

平成24年2月17日に開催した平泉遺跡群調査整備指導委員会において評価を行ったこのことについて、下記のとおり報告します。

1 一般県道平泉停車場中尊寺線について

計画された道路整備事業によって、無量光院跡に対して以下の影響があると思料された。

1) 工事に伴う新規の掘削が、資産価値の中核である池及びその他の施設の地下遺構に及ぶ計画であることから、遺産への負の影響は明らかである。

（付帯意見として）この影響を除去するためには、工法の変更や設置する新規設備の数量等を再検討することが必須である。

そのためには、遺構確認のための発掘調査が慎重に実施されるべきである。

2) 阿弥陀浄土を観想する観点からは、新規設置設備のうち、道路北側に予定されている照明設備の設置が負の影響を与える可能性を考慮する必要がある。

（付帯意見として）この影響の可能性を除外するためには、エコモス勧告及び世界遺産委員会の決議内容を考慮したうえで、デザイン等を再検討する必要がある。

3) 道路改修により、今後の無量光院跡整備において池跡の復元整備が十分になされないものであるとすれば、中長期的に負の影響がある。

（付帯意見として）この影響を軽減するために、当面、路面等を活用した池の範囲表示を検討する必要がある。

4) なお、電柱及び電線等が除去されることによる周辺景観の改善及び地域住民の参加による資産環境の整備を評価する。

2 主要地方道花巻衣川線森下地区について

「影響なし」と判断した。

3 市道衣川橋・六道線及び市道田中上野線道路改良事業について

1) 衣川側の擁壁の設置について、奥州市の景観条例が適用されることを前提に、「影響なし」と判断した。

2) なお、新たな道路敷きが現在以上に史跡から離れる点は、改善と認められる。

2-1 世界遺産一覧表記載推薦書（2009年12月提出）の内容

（平泉一仏国土（浄土）を表す建築・庭園及び考古学的遺跡群－世界遺産登録推薦書第4章より抜粋）
 （注：文中の下線部は事務局にて付した）

第4章 保全状況と資産に与える影響

b) 資産に与える影響の要因

1. 開発の圧力

(1) 公共下水道事業

(2) 北上川遊水地事業及び関連河川改修事業

(3) 道路整備事業

無量光院跡を通過している県道平泉停車場中尊寺線については、道路改良工事が計画されている。当該事業は、特別史跡無量光院跡整備基本計画にも基づくもので、資産を保全しつつ自動車の交通量や速度を抑制するとともに、来訪者の安全性の向上を図ることを目的としている。

中尊寺境内に接する国道4号と町道坂下線との交差点改良工事が計画されている。当該事業は、来訪者の安全性向上を図ることを目的としており、中尊寺の導入部の景観にも配慮した内容とするよう調整することとしている。

緩衝地帯においては、（仮称）町道柳之御所線及び一般国道4号平泉バイパスの拡幅、東北自動車道と既存道路とを繋ぐ道路及び主要地方道花巻衣川線の一部、町道中学校線の一部についての新設が計画されている。

当該道路計画については、専門家及び有識者から成る「平泉町重要公共施設デザイン会議」において総合的な観点から計画案に関する検討を行など、周囲の景観に調和した道路の意匠・構造とすることとしており、当該構成資産の顕著な普遍的価値の保護に影響はない。

(4) 上下水道更新事業

2-2 世界遺産一覧表記載推薦書追加情報資料（2010年10月提出）の内容

（平泉一仏国土（浄土）を表す建築・庭園及び考古学的遺跡群－追加情報資料より抜粋）

開発の圧力	No	該当資産 （構成資産）	資産との関係			路線名等	仕様概略	計画期間
			資産内	緩衝地帯 （資産直近）	緩衝地帯			
3. 道路整備事業	3-2	無量光院跡	○	○		平泉停車場中尊寺線	平泉駅前付近～中尊寺前付近（詳細は設計中）	H22設計 H23工事着手予定

3-1 構成資産の保存管理（抜粋）

（平泉一仏国土（浄土）を表す建築・庭園及び考古学的遺跡群一付属資料より抜粋）

2 保存管理の方向性

（2）遺跡

イ 保護の基本的な考え方

各構成資産における保護に関する基本的な考え方としての地域区分並びに想定される現状変更等の行為とその具体的取扱方針の概要は、以下の表及び図に示すとおりである。

表-1 構成資産の地区区分・取扱い方針等一覧表

構成資産	種別	地区区分の詳細	想定される現状変更等の行為	現状変更の具体的取扱方針
4 無量光院跡	特別史跡	【第1種地域】	・住民生活に伴う建築物及び工作物の新・増・改築等、上下水道の整備、既存道路の改修、史跡整備のための発掘調査、見学者のための活用整備	・整備活用のための発掘調査及び調査結果を踏まえた史跡の整備については、現状変更を認める。また、文化財としての価値及び景観の保全に影響を及ぼさない範囲において、やむを得ない必要最小限の現状変更は認める。
		【第2種地域】	・住民生活に伴う建築物及び工作物の新・増・改築等、上下水道の整備、木竹の伐採・植栽、既存道路の改修、発掘調査	・遺構を保護し、史跡空間であることに配慮した居住を前提として現状変更を認める。

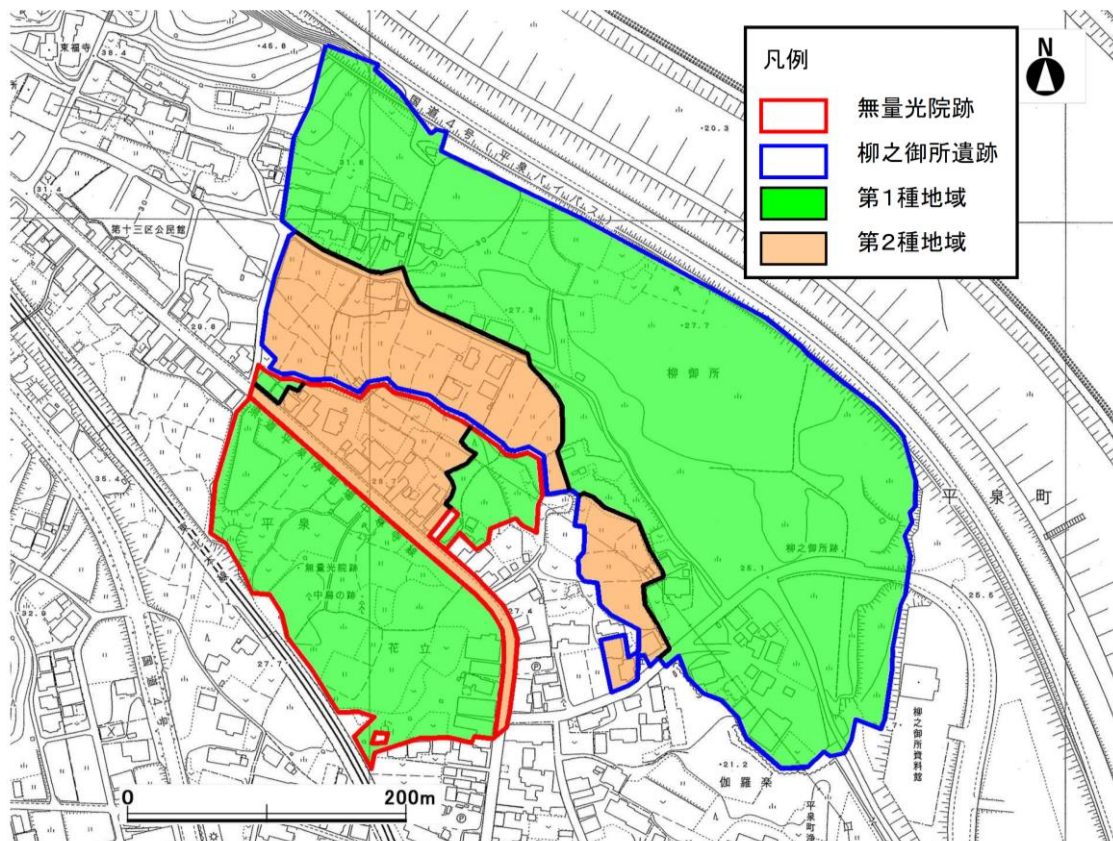


図-1 無量光院跡地区区分図

4-1 現況と整備後の比較（図面及び写真等）
【現況写真】



【整備後予想】



【東門跡付近から金鷄山】



【東門跡付近から中尊寺通り】



4-2 遺産への影響に関する整理表

【一般県道平泉停車場中尊寺線（中尊寺通り）】

	想定される遺産への負の影響	関係するイコモス及び世界遺産委員会による指摘	負の影響を軽減する方策
1	・地下の考古学的情報への影響	・考古学的情報の積極的保護を図ること(5-d)。	・地下の考古学的情報について確実に把握することにより、それらの保護のための詳細な工法を検討することができる可能性がある。
2	・遺産（資産）の修復計画への影響	・『作業指針』第172項に基づきイコモス評価及び世界遺産委員会の判断を受けるために計画書を提出すること(5-c)。	・無量光院跡の遺産としてのプレゼンテーション（整備）の一部として、重要な遺構について表現するなど、開発計画の景観改善のための手法に位置づけることにより、資産価値の伝達能力が向上する可能性がある。
3	・資産及び周辺への景観の影響	・金鶏山と他のアンサンブルとの間の阻害の無い展望を維持すること(5-a)。 ・家屋群及びその他の構造物（道路など）が負の影響を持つ(4-完全性)。	・工作物の設置場所について十分検討することにより、視点場からの金鶏山との視覚的結合が維持される可能性がある。

【資料】開発事業者が作成した資料（抜粋）

1-1. 事業者の名称

岩手県 県南広域振興局土木部 一関土木センター

1-2. 事業の目的及び必要性

(1) 全体概要

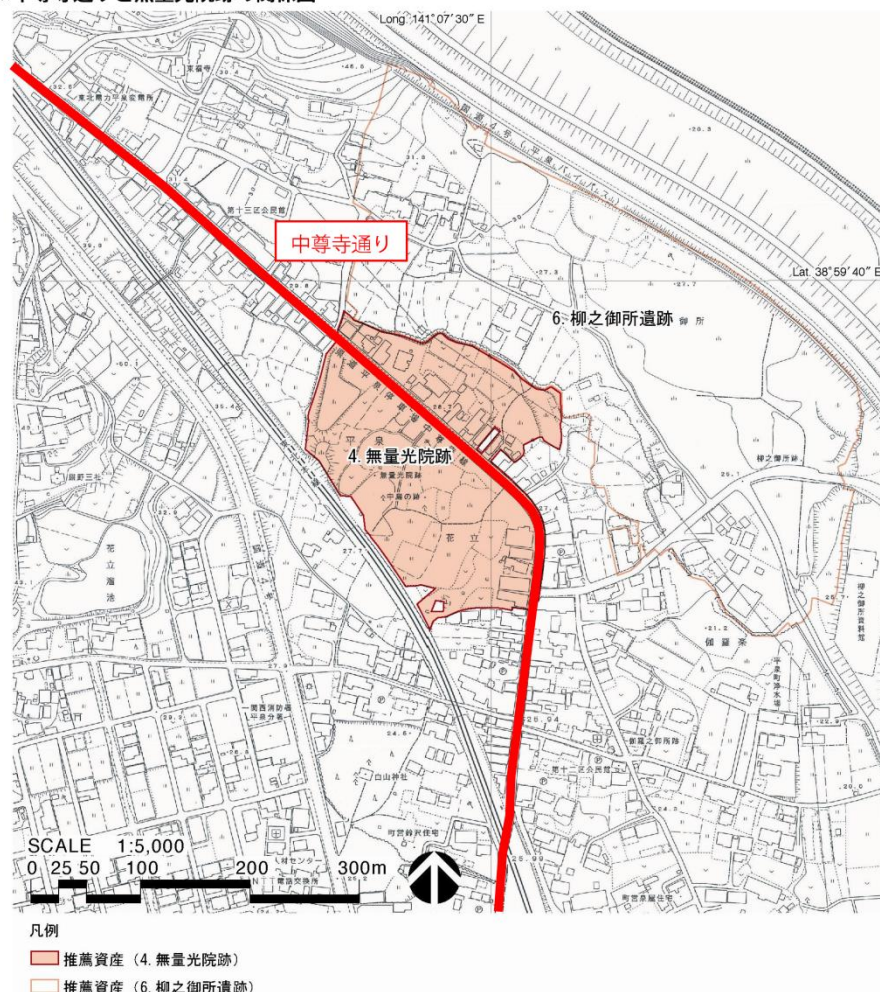
一般県道 平泉停車場中尊寺線（以下、「中尊寺通り」と記す。）は、JR平泉駅から中尊寺交差点付近の国道4号に至る「特別史跡 中尊寺」への参道と位置付けられ、「特別史跡 無量光院跡」も経由するまちづくりの骨格をなす路線である。

中尊寺通りは、旧国道4号であることから車両交通中心の断面構成となっており、一部区間において歩道が未整備であることなど、歩行者系交通にとって通行しにくい道路状況となっている。

近年、世界遺産登録への動きが脚光を浴び観光客が増加する傾向であるほか、国道4号に加えて国道4号平泉バイパスの開通により通過交通が移行したことから、将来の歩車共存道路（コミュニティモール）化を見据えた、歩行者優先の道路構造への転換を目的に道路改良事業を実施する。

また、安定したライフラインの実現等を目的とした電線共同溝整備事業、歩行者等の休息施設やイベント時の地域の拠点づくりを目的とした休憩施設整備事業、歩行者等の安全確保を目的とした踏切道の拡幅を主体とした交通安全事業を実施するものである。

※中尊寺通りと無量光院跡の関係図



(2) 個別事業の必要性

1) 道路改良事業

歩行者優先道路へ転換するための再整備に合わせて、地域拠点である鉄道駅から世界遺産の構成要素の中核を占める中尊寺に至る動線であるため、歴史的文化遺産を連絡するシンボルロードに相応しい景観形成を目的として、舗装整備、排水施設整備、道路照明施設整備を行う。

なお、舗装整備としては、景観形成を目的とした表層デザインの更新のほか、沿道建物における大型車両通過時の振動対策を目的とした舗装路盤の入れ替えを実施する。

また、排水施設整備としては、無蓋化により歩道等の利用空間の拡大を行うほか、沿道における強雨時の冠水被害も報告されていることから、断面積の拡大による流下能力の向上を目的として、路面排水溝の敷設替えを実施する。

2) 電線共同溝整備事業

路側帯に設置され歩行者の通行の支障となっている電柱について、撤去による歩行者空間の拡大を図るほか、災害時の電柱倒壊などの危険を軽減する防災機能の向上、安定したライフラインの実現、情報通信ネットワークの信頼性の向上、都市景観の向上を目的として、無電柱化（電線共同溝の設置）を実施する。

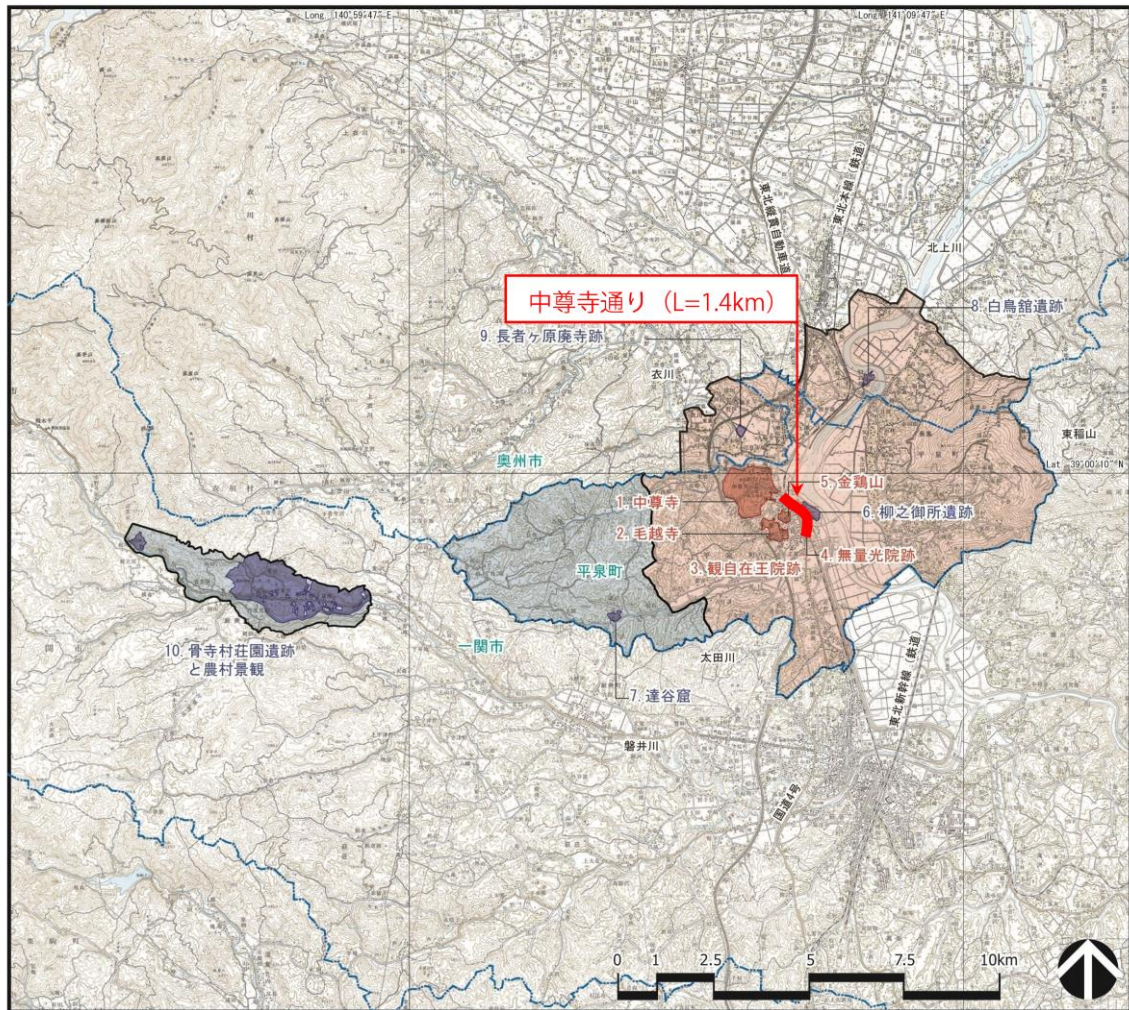
3) 休憩施設整備事業

まちづくりの骨格をなし、観光回遊路に指定される路線において、快適な散策における休息場所の提供ほか、中尊寺通りを利用したお祭り等のイベント時における地域の拠点づくりを目的として、案内板、ベンチ、トイレを備えた休憩施設（小公園）の整備を実施する。

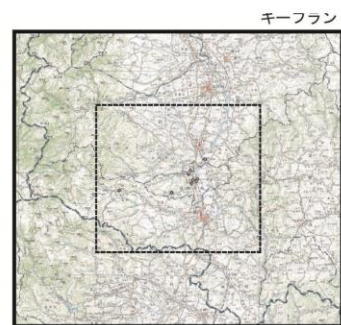
4) 交通安全事業

中尊寺通りに2カ所存在する現在の踏切道は、車道のみで構成される幅員構成となっており、鉄道横断時の歩行者の安全性に課題があることから、交通安全性の向上を目的として、路側帯を設置する踏切道の拡幅を実施する。

1-3. 事業位置図



凡例	
 資産	176.2ha
1. 中尊寺	137.2ha
2. 毛越寺	22.7ha
3. 観自在王院跡	3.8ha
4. 無量光院跡	4.2ha
5. 金鶏山	8.3ha
 関連資産	373.2ha
6. 柳之御所遺跡	10.8ha
7. 達谷窟	5.1ha
8. 白鳥館遺跡	3.6ha
9. 長者ヶ原廃寺跡	3.8ha
10. 骨寺村荘園遺跡と農村景観	349.9ha
資産計	549.9ha
 緩衝地帯	6,008.8ha
 周辺地帯	2,206.0ha
緩衝地帯及び周辺地帯計	8,214.8ha
総計	8,764.2ha
 県境	
 市町境	



JAPAN/HIRAIZUMI

1-4. 事業内容の詳細

(1) 事業項目

中尊寺通り道路整備事業は、道路改良事業である舗装整備、排水施設整備、道路照明施設整備、および電線共同溝整備事業のほか、休憩施設（小公園）整備事業、交通安全事業（踏切道拡幅）にて構成される。

表.1－事業項目

事業内容	工種	規模	備考
道路改良事業		1.4 km	
	舗装整備	11,700 m ²	縁石撤去を含む
	排水施設整備	2,900 m	
	道路照明施設整備	149 基	
電線共同溝整備事業		1.4 km	
休憩施設整備事業	公園整備	3 カ所	<ul style="list-style-type: none"> ・その1：高館踏切付近 ・その2：伽羅之御所跡入口交差点付近 ・その3：高館山入口交差点手前 合計 約 1,600 m ²
	トイレ新築	2 棟	小公園その2、その3に同一棟を設置 (延床面積 約 30.0 m ²)
交通安全事業	踏切道拡幅	2 カ所	歩道等幅員の確保 (高館踏切, 中尊寺道踏切)

(4) ゾーン毎の道路改良事業の考え方

景観整備では、中尊寺の参道らしい雰囲気演出から車道中央への石畳の配置を基本とし、沿道状況による4つのゾーンのデザインを連続的に変化させ、“奥性”を演出します。

なお、「特別史跡 無量光院跡」の史跡エリア内を通過する区間②では、往時の景観の復元を図るため、道路の個性をなるべく控えた舗装とするほか、眺望を阻害する照明などの道路施設は宅地側への片側配列としている。

区間①：駅前～中尊寺通り商店街地区
(平泉駅～無量光院跡エリア南端)



- ・中尊寺への参道を予感させる雰囲気演出するため、小舗石による石畳とする。

区間②：無量光院跡地区
(無量光院跡 史跡エリア内)



- ・文化的景観の眺望を確保するため、道路の個性を控えた土を連想させる舗装とする。
- ・史跡エリアの月明かりを演出するため、低位置照明を宅地側に設置する。

区間③：高館～中尊寺前地区「高館ゾーン」
(無量光院跡エリア南端～中尊寺道踏切)



- ・区間①と同様の石畳とするものの、大版を採用するほか、道路内に植栽を取り入れることで、緑に囲まれた中尊寺の参道としての雰囲気色濃くする。

区間④：高館～中尊寺前地区「高館ゾーン」
(中尊寺道踏切～国道4号)



- ・中尊寺への参道の最終章となるため、車道中央に石畳や道路内への植栽配置のほか、周囲の緑に馴染む土系舗装とします。

(5) 無量光院跡地区の道路改良事業の考え方

～金鷄山から東稲山までの空間を文化的景観として修景・保全する～

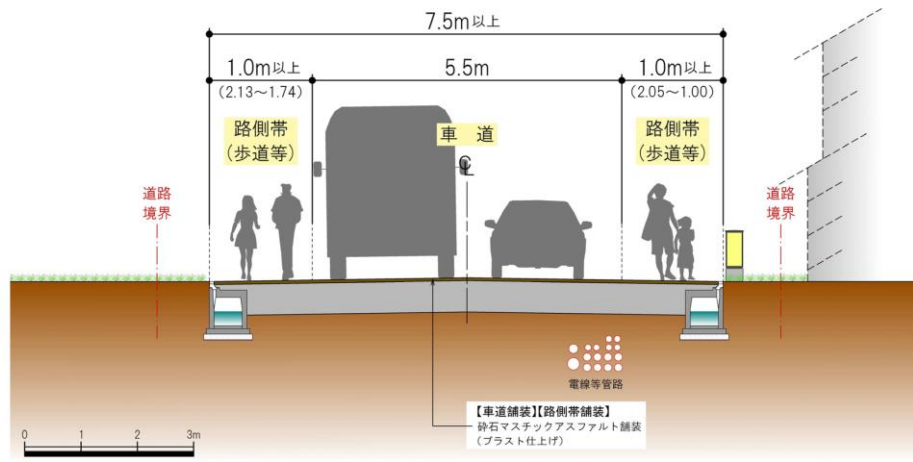
無量光院跡と一体となった道路の空間創出を目指します。中尊寺に向かうシークエンスの中では、周囲に広がる豊かな歴史自然景観が道路の屈曲と同時に突然に開かれます。ここでは歴史的遺構を紡ぎ、理想的な廃墟としての姿を後世に伝えるみちづくりを行います。

■具体的な施設デザインのポイント

- ・ 文化的景観の眺望を確保するため、道路の個性をなるべく控えた土系舗装とし、照明など道路施設は片側（東側のみ）配列とする。
- ・ 史跡エリアにおける、月明かりや星空を印象的に演出するよう、民地側に低位置照明（内照式車止め）を配置する。

■速度抑制の方策

- ・ 道路全面を歩行者専用道路（園路）に見せかけることで、慎重な運転を期待させる。
また、起点側に急曲線、終点側に植栽フォルトが見渡せ、先方の視界が狭まることで、自然な速度抑制を期待する。



(6) 設計の考え方（遺産への配慮事項）

「特別史跡 無量光院跡」の史跡エリア内では、下記の2事業を実施する。

○道路改良事業

沿道家屋等の振動対策等を目的とした舗装整備、歩行者空間の拡大等を目的とした排水施設整備、および歩行者等の安全な移動における視環境の確保を目的とした道路照明施設整備からなる。

上記の整備内容は現在の道路構造物等の更新であり、本事業による埋蔵文化財への影響は少ない。

○電線共同溝整備事業

歩行者空間の拡大、ライフラインの信頼性の向上等を目的として、架空配線となっている電力・通信管路を埋設し、無電柱化を図る。

・管路線形

新規の掘削範囲を最小化するため、既存埋設管施工時の掘削範囲内に収めることを目的に、可能な限り水道管や下水道管の上部への設置を基本とした。

この結果、電力分岐柵（需要家への引込みを行うため、管路から分岐する柵）、特殊部（ケーブルを縦断方向から横断方向に分岐等の柵）など、管路部より大きい掘削が必要なコンクリート構造物が設置される箇所においても、新規の掘削範囲の最小化に留意している。

・管路埋設位置（埋設深さ）

車両による繰り返し荷重に耐えうる構造とするほか、舗装等の維持修繕に係わる掘削時の破壊を避けるため、舗装厚に加え 30 cmの余裕を見た最小の埋設深さとした。

・その他

側溝を下越する沿道の需要家への電力・通信管の引込管路のほか、下水道等の既設埋設管路の設置区間以外の管路部は、新規掘削が必要となる。（資産内：約 400 m²、緩衝地帯：約 1,700 m²）
次項に具体的な横断図および平面図により、新規掘削が必要な個所を示す。

（添付地図については掲載省略）

参考資料3 保存管理に係る運営体制及びHIA実施要領

平成31年(2019)3月に改定された包括的保存管理計画⁴に基づく「平泉」の保存管理に係る運営体制及びHIAの実施要領は以下のとおりである。

1 平泉の保存管理に係る運営体制

包括的保存管理計画(平成31年(2019)3月改定版⁴106ページより)

○ 構成資産及び緩衝地帯の保存管理区分

確実な保存管理を推進するために、各々の構成資産を管理する平泉町と所有者(住民及び宗教法人)を中心として組織体制を整備する。その際には、地域住民が資産の適切な保存管理と整備活用の施策に積極的に参加できるよう配慮するとともに、岩手県及び文化庁、関連諸機関との連携を強化し保存管理の運営に関する方法・体制の整備を図る。

(1) 関係市町

関係各市町は、それぞれ保存管理に必要な体制の整備を行っている。

資産が位置している平泉町は、資産の所有者である住民又は宗教法人と連携して資産を管理する責任者である管理団体等に指定され、基本的な資産の保存管理を行っている。平泉町には、資産及び緩衝地帯の保存管理全般の調整を担当する世界遺産推進室と、資産及び緩衝地帯の調査・管理及び整備公開活用を担当する文化遺産センターが設置され、この2つの組織が連携して資産の保存管理を推進している。

奥州市では、総合政策部に世界遺産登録推進室を設置し、緩衝地帯の保存管理の総合調整を行っている。また、世界遺産推進本部を設置し、庁内全体における各種事業の横断的な調整及び関係機関との連携を図っている。

(2) 岩手県及び文化庁

岩手県においては、関係各市町と緊密に情報交換を行い、資産の保存管理に関して行政的な助言を行うとともに、必要に応じて財政的・技術的な支援を行うこととしている。また、岩手県が所有している資産の公開活用を推進するとともに、資産全体についての包括的な保存管理や調査研究及び個々の構成資産を連絡する交通ネットワークの整備など、資産全体に係る課題については、岩手県が主体となって取り組んでいる。

文化庁においては、岩手県及び関係市町との緊密な情報交換を基に、資産の保存管理全般に関して行政的な助言を行うとともに、必要に応じて財政的・技術的な支援を行うこととしている。同時に、国内の世界遺産の保存管理に関する情報をはじめ、各国における世界遺産の保存管理状況などに関する情報の収集及び周知に努めている。

(3) 保存管理に係る連携

資産の所有者及び資産に関する権利者や地域住民等の間で生ずる様々な課題に対し、

岩手県・関係市町及び資産の保存管理に関係する諸団体等においては、日常的な情報共有を行い、資産保護の連携を図っている。

また、岩手県は、関係各市町と連絡調整のための会議を年間2～3回程度開催し、保存管理等の状況や今後の管理運営についての情報交換を行うなど、さらなる連携の強化に努めることとしている。

(4) 岩手県世界遺産保存活用推進協議会

資産の保存管理計画の実効性をより確実なものとするために、岩手県教育委員会事務局を主体として、岩手県の関係部局及び関係各市町等を構成員とする協議会が平成19年(2007)年1月に設置されている。この協議会では、平泉遺跡群調査整備指導委員会などからの専門的立場からの助言を踏まえつつ、包括的な視点から資産の適切な保存管理及び整備活用について必要な調整を行っている。

また、上記の推進協議会における調整内容は、管理団体を中心とする保存管理推進母体との連携において、確実に反映されるような仕組みとなっている。

○ 持続的運営のための定期的確認

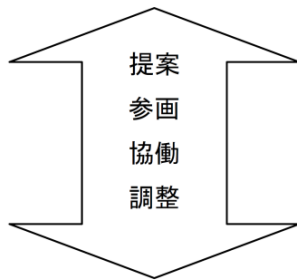
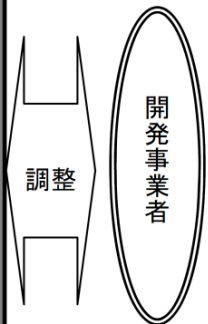
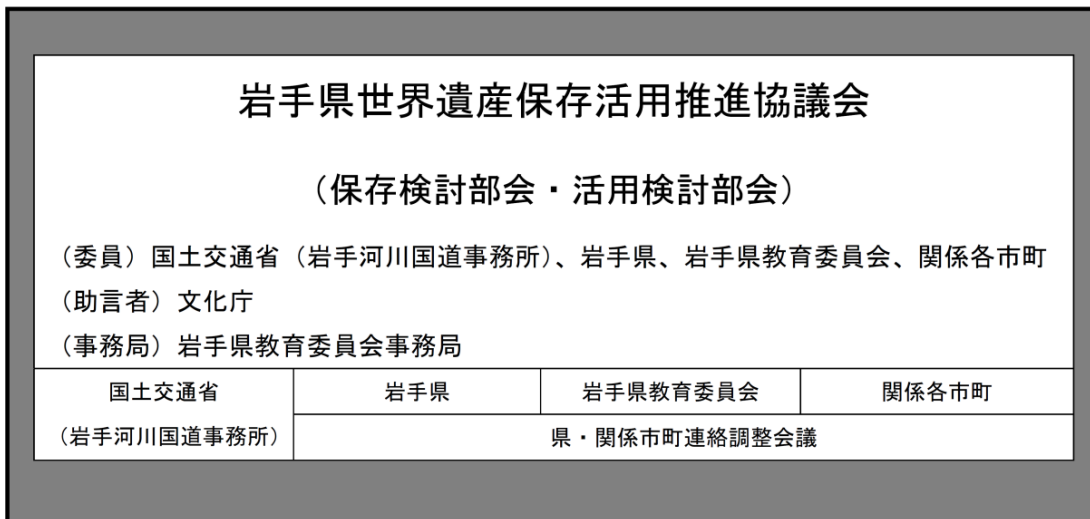
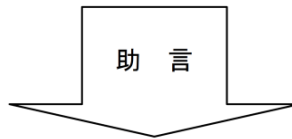
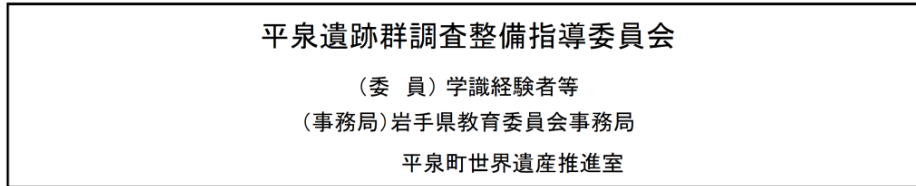
包括的保存管理計画の理念及び方針を具体化するため、「岩手県世界遺産保存活用推進協議会」が毎年開催されている。この協議会には、保存検討部会及び活用検討部会の二部会が設置されている。

この協議会を主体として、平泉の顕著な普遍的価値の保存管理活用のための行動計画が策定され、実施されている。行動計画は、資産及び緩衝地帯における保存管理の方向性を検討し、その具体的な事業計画の内容・事業主体・期間などを記載している。具体的な事業実績については毎年度開催される協議会において報告され、実績及び実態に応じた行動計画の修正を行っている。

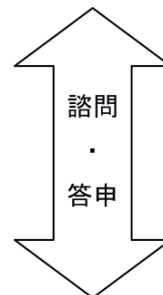
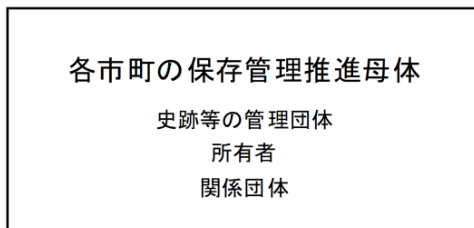
保存検討部会	活用検討部会
i 資産の保存管理に関すること	i 資産を活用した観光振興に関すること
ii 行動計画の策定に関すること	ii 資産を活かしたまちづくりの推進に関すること
iii 資産周辺の景観の維持に関すること	iii 行動計画の策定に関すること
iv 資産及びその周辺における開発事業の調整に関すること	iv 人材育成の推進に関すること
v その他資産の保存に関すること	v 便益施設整備の調整に関すること
	vi その他資産を活用した諸事案に関すること

○ 平泉の保存管理に係る運営体制図

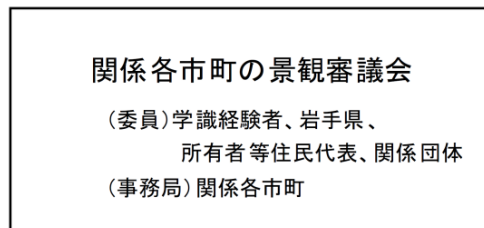
【助言機関】



【企画立案機関】



【連携機関】



2 平泉に係る HIA 実施要領

(目的)

第1 第35回世界遺産委員会決議内容を踏まえ、資産等の一層の保存管理を推進するため、遺産影響評価を行う。

(対象範囲)

第2 遺産影響評価の対象範囲は、世界遺産の構成資産及び緩衝地帯、関連資産（拡張登録候補資産）及び周辺地帯とする。

(対象事業)

第3 遺産影響評価の対象事業は、「主要な道路開発」及び「その他の開発」のうち、「平泉」の顕著な普遍的価値に影響を及ぼすおそれのある開発とする。

(2) 事業の選択に当たっての検討は、岩手県教育委員会事務局、一関市、奥州市及び平泉町がこれを行う。

(手続き)

第4 対象事業について、「岩手県世界遺産保存活用推進協議会（以下「推進協議会」という。）」に対する助言機関である「平泉遺跡群調査整備指導委員会（以下「指導委員会」という。）」において評価を行い、その結果を推進協議会に助言する。

(2) 推進協議会は評価結果にもとづき、必要に応じて開発部局と調整を行う。

(3) 遺産影響評価は、原則として年1回以上行う。

(4) 対象事業の評価結果のうち、世界遺産に関連する範囲の事業（構成資産及び緩衝地帯における事業）についてはユネスコ世界遺産センターへの報告を行う。

(5) 対象事業の評価結果については、推進協議会から事業者（開発部局）へ通知する。

(その他)

第5 本件の庶務の処理は、「岩手県世界遺産保存活用推進協議会設置要綱」（平成19年1月19日施行）に従って行うものとする。

附 則

この要領は平成23年10月27日から施行する。

参考資料 4 OUV の属性への負の要因と経過観察指標との関係整理

- 包括的保存管理計画（平成31年（2019）3月改訂版）に示した資産に対する負の影響と本報告書に示したHIAの観察・評価の指標との関係

	OUV を構成する諸要素	資産に対する負の影響	HIA の観察・評価の指標として考えられるもの ※ 本報告書で用いた「モニタリング（経過観察）指標」（第7章）と同義
平泉の顕著な普遍的価値	<p>建築物・庭園・遺跡・浄土思想の伝承</p>	<p>◆知識の提供・普及活動等の停滞による影響 ・資産の視覚的結び付き、関連性の未理解による影響</p> <p>※気候変動等による影響 ・酸性雨による影響（建造物等の腐食） ・温暖化による影響（庭園水系、庭園植生、境内植生等の変化）</p> <p>※自然災害による影響 ・洪水による影響（遺跡のき損） ・大雨による影響（遺跡、建造物、庭園景観のき損、庭園水系の変化） ・風化、虫害、樹木の成長等による影響（遺跡、庭園景観のき損）</p> <p>※観光圧力による影響 ・観光客数増加による影響（遺跡、建造物、庭園景観のき損、周辺環境の変化）</p> <p>※開発圧力による影響 ・周辺地域の大規模開発による影響（埋蔵文化財の消失、視覚的結び付きを妨げる景観阻害要因の設置） ・住民の多様な意識による影響（統一性のない町並みデザイン）</p> <p>◆技能、技術の伝達に係る影響 ・継承者不在による影響（伝統芸能の消滅）</p> <p>(注) ※は、『世界遺産条約履行のための作業指針』に則したもの</p>	<p>■資産の視覚的結び付きに関して （毎年度の景観変化に対する対応等） ※視点場における景観を阻害する要因の数 ※規制（景観条例等）に適合しない要因の数</p> <p>■資産の関連性に関して （理解の促進・受入体制への対応等） ※知識の提供・普及状況 （整備の進捗、ガイダンス施設、研究報告、発掘調査、パンフレット・HP などによる各種情報提供、国内外専門家による現地確認・指導会の開始ア、各種研修会・セミナー等の開催） ※観光客数の動向 （入込数、便益施設と収容能力など）</p> <p>■構成資産の保護に関して （気候・生態系・開発・伝承保護への対応等） ※酸性雨の状況 （PH など） ※水系の状況 （水質、水量、生物など） ※植生の状況 （樹種とその割合など） ※遺構の状況 （礎石の位置など） ※現状変更数及び内容 ※伝統芸能継承演目の数 ※宗教儀礼及び芸能等の開催状況</p>

○ 負の影響を与える要因の観察（包括的保存管理計画（平成31年（2019）3月改訂版より）測定すべき内容、周期、記録組織の概要に係る指標一覧表

指 標		周 期	記録組織	
(1) 資産の視覚的結び付きの保護	a) 視点場における景観を阻害する要因数	毎年	岩手県	
	b) 規制（景観条例等）に適合しない要因数	毎年	平泉町 奥州市	
(2) 資産の関連性の保護	a) 整備（ガイダンス施設含む）の進捗率	3年毎	岩手県	
	b) 発掘調査報告書・研究報告書等の刊行数	毎年	岩手県	
	c) パンフレット・HPによる情報提供数	毎年	岩手県	
	d) 専門家による現地確認・指導会の開催数	毎年	岩手県	
	e) 研修会・セミナー等の開催数	毎年	岩手県	
	f) 観光客入り込み数	毎年	岩手県	
	g) 便益施設数と収容能力の状況	3年毎	岩手県	
(3) 個別資産の保護	(3)-1 建造物の保護	a) 建造物修理記録・整備記録	毎年	中尊寺 平泉町
		b) 建造物防火施設及び保存施設の点検、整備、改修若しくは修理結果（補助、自費）	毎年	中尊寺 平泉町
		c) 現状変更の数及びその内容	毎年	中尊寺 平泉町
		d) 酸性雨の状況（PH測定）	3ヶ月毎	平泉町 中尊寺
	(3)-2 庭園の保護	a) 現状変更の数及びその内容	毎年	平泉町
		b) 酸性雨の状況（PH測定）	3ヶ月毎	平泉町 毛越寺
		c) 水系の状況（水質、水量、生物の測定）	3ヶ月毎	平泉町 毛越寺
		d) 植生の状況（樹種とその割合の測定）	毎年	平泉町 毛越寺
	(3)-3 考古学的遺跡の保護	a) 現状変更の数及びその内容	毎年	平泉町
		b) 遺構の状況（礎石位置の測定）	毎年	平泉町
	(3)-4 価値を伝えるための宗教的儀礼及び芸能の保護	a) 伝統芸能演目の継承数	毎年	平泉町 奥州市
		b) 宗教儀礼及び芸能等の開催数	毎年	平泉町 奥州市
(4) 緩衝地帯の保護	a) 緩衝地帯における現状変更の数	毎年	岩手県	

<p>Hiraizumi (Japan) No 1277rev</p> <hr/> <p>Official name as proposed by the State Party Hiraizumi – Temples, Gardens and Archaeological Sites Representing the Buddhist Pure Land</p> <p>Location Iwate Prefecture Japan</p> <p>Brief description Hiraizumi was the political and administrative centre of the northern realm of Japan in the 11th and 12th century and rivalled Kyoto, politically and commercially. Built by the Ōshū Fujiwara family, the northern branch of the ruling clan, its layout is seen as reflecting the cosmology of Pure Land Buddhism. This had been introduced to Japan from China and Korea in the 6th century and by the 12th century had developed into a strong, local distinctive doctrine. Much of the area was destroyed in 1189 when the city lost its political and administrative status. There were further fires in 13th and 14th centuries and the city never recovered its former glory. Six sites display elements of the once great centre: four temple complexes with Pure Land gardens, Mount Kinkeisan, and the archaeological remains of administrative buildings.</p> <p>Category of property In terms of categories of cultural property set out in Article I of the 1972 World Heritage Convention, this is a serial nomination of 6 sites.</p> <p>1 Basic data</p> <p>Included in the Tentative List 6 April 2001</p> <p>International Assistance from the World Heritage Fund for preparing the Nomination None</p> <p>Date received by the World Heritage Centre 26 December 2006 27 January 2010</p> <p>Background This is a deferred nomination (32 COM, Quebec, 2008).</p> <p>The World Heritage Committee adopted the following decision (Decision: 32 COM 8B.24):</p>	<p>平泉 (日本) No 1277 改定</p> <p>締約国から提出のあった公式名 「平泉—仏国土 (浄土) を表す建築・庭園及び考古学的遺跡群」</p> <p>場所 岩手県 日本</p> <p>要約 平泉は 11 世紀から 12 世紀の日本の北方領域における政治・行政上の拠点であり、政治的・経済的に京都に匹敵した。支配氏族の北方における支族である奥州藤原氏により築かれた際、その配置は仏教における浄土思想を反映したとみられている。こうした浄土思想は 6 世紀から 12 世紀にかけて中国・朝鮮から日本に伝来し、有力な在地独自の思想へと発展を遂げることとなった。その範囲の大部分は 1189 年に都市が政治・行政上の地位を失った際、破壊された。さらには、13 世紀と 14 世紀に発生した大火を受け、都市がかつての栄光を取り戻すことは無かった。6 つの遺跡はかつての一大拠点の要素であることを示し、浄土庭園を伴う 4 つの寺院と金鶏山及び政庁建物群の考古学的遺跡から構成されている。</p> <p>資産の分類 1972 年の世界遺産条約第 1 条における文化遺産に分類されるものであり、6 つの遺跡からなるシリアルノミネーションである。</p> <p>1 基本資料</p> <p>暫定リスト記載 2001 年 4 月 6 日</p> <p>推薦準備に係る世界遺産基金からの国際援助 無</p> <p>世界遺産センターでの受理日付 2006 年 12 月 26 日 2010 年 1 月 27 日</p> <p>経緯 前回は「延期」の勧告 (32COM、ケベック 2008)</p> <p>世界遺産委員会は以下の決議を採択 (32COM8B.24)</p>
---	---

The World Heritage Committee,

1. Having examined Documents WHC-08/32.COM/8B and WHC-08/32.COM/INF.8B1,
2. Defers the examination of the nomination of Hiraizumi – Cultural Landscape Associated with Pure Land Buddhist Cosmology, Japan, to the World Heritage List in order to allow the State Party to:
 - a) provide further comparative analysis, particularly for the gardens, including comparators in China and Korea;
 - b) consider revising the boundary of the nominated property to include the elements of the landscape value;
3. Recommends that any further nomination would need to be accompanied by a fully functioning management plan and an adequate suite of indicators, including those to monitor visual connections and knowledge of associations with the property;
4. Considers that any revised nomination with revised boundaries, would need to be considered by a mission to the site.
5. Recommends that the World Heritage Centre assist by all means possible the State Party in the revision of the nominated property.

On 10 January 2010 the State Party submitted a revised nomination.

Consultations

ICOMOS has consulted its International Scientific Committees on Cultural Landscapes, on Archaeological Heritage Management and several independent experts.

Literature consulted (selection)

Yiengpruksawan, M., *Hiraizumi*, Harvard, 1998.

Technical Evaluation Mission

An ICOMOS technical evaluation mission visited the property from 7 to 10 September 2010.

Additional information requested and received from the State Party

ICOMOS has sent a letter to the State Party on 18 December 2007 on the following issues:

- How the nominated area as a whole specifically and tangibly reflects the precepts of Pure Land Buddhism;
- Details of the cultural traditions and philosophy that underpin and justify the recreation of gardens from archaeological evidence;
- How the Pure Land Gardens can meet the conditions of authenticity within their specific cultural context;
- How the layout of Kyoto, Nara and Kamakura differs from Hiraizumi in order to justify the specificity and thus the outstanding universal value of the Hiraizumi nominated areas.

世界遺産委員会は

- 1 WHC-08/32.COM/8B と WHC-08/32.COM/INF.8B の文書の審査を行い、
- 2 締約国に対して、
 - a) 中国・韓国の事例を含め、特に庭園のためのさらなる比較研究を提示すること、
 - b) 景観の価値をもつ諸要素を含めるために、推薦資産の境界線の改定について考慮すること、の二点を求めるために、「平泉—浄土思想を基調とする文化的景観」（日本）の推薦に係る審査を延期し、
- 3 さらなる推薦に際しては、十分に機能している管理計画、視覚的な繋がりおよび遺産との関連性に関する知識を監視するための指標を含む適切な一群の指標を添付することが必要となるであろうことを勧告し、
- 4 境界線の改定を含む推薦に当たり、資産への現地調査団の派遣による検討が必要となるであろうことを考慮し、
- 5 推薦資産の改定を行う場合には、世界遺産センターがすべての方策を講じて締約国を支援するよう勧告する。

2010年1月10日、締約国から改定推薦書の送付があった。

協議

イコモスは、文化的景観及び考古学的遺跡に係る保存管理に関する国際科学会議及びその他個人の専門家と協議を実施している。

参考文献（抜粋）

Yiengpruksawan, M., *Hiraizumi* Harvard 1998

現地調査

2010年9月7日から10日に実施

追加質問の要請及び締約国からの回答

イコモスは2007年12月18日に締約国に対し以下の事項について書簡を送っている。

- 推薦資産の全体が浄土思想の教義をどのように明確かつ有形的に反映しているのかについて
- 考古学的物証に基づき、浄土庭園の復元的整備を支持または実証する文化的伝統・哲学（論理）の詳細について
- 浄土庭園が、その文化的文脈において、どのように真実性の条件に合致するのかについて
- 「平泉」の特殊性ひいては平泉の推薦範囲の顕著な普遍的価値を証明するために、「京都」「奈良」「鎌倉」の空間構造がどのように「平泉」と異なるのかについて

The State Party responded on 28 February 2008 with supplementary information. This is included in this evaluation report.

Date of ICOMOS approval of this report
10 March 2011

2 The property

Description

The revised nomination submitted by the State Party has changed the name of the property from "Hiraizumi - Cultural Landscape Associated with Pure Land Buddhist Cosmology" to "Hiraizumi - Temples, Gardens and Archaeological Sites Representing the Buddhist Pure Land" and has reduced the serial nomination from 9 sites to 6, by excluding rural estates to the west of Hiraizumi and two archaeological sites in Hiraizumi.

Hiraizumi, the site of the political and administrative centre of the northern realm of Japan in the 11th and 12th centuries, is in the north-east of Japan's largest island Honshu. The Kitakamigawa River curves north-south through the site as do major trunk roads and a railway. The present town, on a terrace to the east of the river, covers around one square kilometre of the narrow basin between Mount Tabashineyama to the east and the undulating hills which rise to the Ôu Mountains in the west. To the north and south are further rivers, the Koromokawa and the Ôtagawa. Much of the higher slopes of the mountains are clothed in plantations of oak, cedar and red pine, while individually planted cedar trees punctuate the more open landscape within temple complexes, near houses and along streams.

Ancient Hiraizumi was mostly destroyed in the 12th century and there were fires in the 13th and 14th centuries. What remains are a few standing temples, the most important of which is the 12th century Chûson-ji Konjikidô, (Golden Hall). Further sites have been revealed by excavation over the past fifty years.

The nominated property consists of six separate sites spread across the semi-urban landscape. They are surrounded by a buffer zone.

A combination of the standing buildings together with the excavated sites, some of which have been re-buried, and reconstructed gardens, are said to reflect aspects of Hiraizumi at the height of its power and influence in the 11th and 12th centuries.

A group of four 'Pure Land gardens' have been revealed by excavations - Chûson-ji Ôikegaran Ato, Môtsû-ji Teien, Kanjizaiô-in Teien and Muryôkô-in Ato. Their layout is seen to reflect the cosmology of Pure Land Buddhism - a vision of paradise translated into reality through the careful disposition of built structures in relation to natural land-forms.

締約国からは 2008 年 2 月 28 日に補足情報を添えて回答があった。その内容は今回の評価報告に含まれている。

イコモスが報告書を承認した日
2011 年 3 月 10 日

2 資産

記述

締約国から提出のあった改定推薦書は資産名を「平泉—浄土思想を基調とする文化的景観」から「平泉—仏国土（浄土）を表す建築・庭園及び考古学的遺跡群」と改め、シリアルノミネーションの数も、平泉の西側の荘園と平泉にある 2 つの考古学的遺跡を除いたことによって、9 から 6 に減じている。

平泉は、11 世紀から 12 世紀の日本の北方領域における政治行政上の拠点であり、日本列島で最大の島である本州島北東部に位置する。北上川は遺跡を南北に縦断し、主要幹線道路と鉄道もこれに沿っている。川の東側段丘に位置する現在の町は、東を東稲山、西を奥羽山脈に連なる起伏に富んだ丘陵に囲まれた 1 km 四方の狭隘な盆地に位置している。北と南にも支流の衣川と太田川がある。山の斜面上部の大部分は檜や杉、赤松などが植樹されている。他方で、植栽された杉の木が、寺院跡や家屋及び河川流域のより開けた空間を、それぞれ区画している。

かつての平泉は 12 世紀に大部分が破壊され、13 世紀と 14 世紀には火災に見舞われた。現在残っているのは寺院数棟であり、中でも最も重要な寺院が 12 世紀に建立された中尊寺金色堂である。他の遺跡については、過去 50 年以上の発掘調査によりその様相が明らかとなってきている。

推薦資産は準都市的な景観全域に散在する 6 つの資産から構成されている。これらの資産は緩衝地帯により囲まれている。

現存建造物と発掘された遺跡（いくつかは埋め戻されている）及び復元された庭園の組み合わせは、11 世紀から 12 世紀に全盛を誇った平泉の権力と影響力の様相を反映しているとされる。

中尊寺大池伽藍跡、毛越寺庭園、観自在王院庭園そして無量光院跡の 4 つの「浄土庭園」群は発掘により明らかにされている。これら庭園のもつ空間構成は浄土思想を反映したものと考えられている。楽園の理想は自然地形と関連して入念に配置された建築物によって現世に実現された。

225-L

The four gardens exhibit different stages in the development of Pure Land gardens during the 12th century and also include what is seen as the most highly developed example, Muryôkô-in Ato.

The plans of the gardens are characterized by the alignment of three elements on the same axis: the mountain symbolic of the Pure Land in the background, the site of a Buddha hall as a physical embodiment of the Pure Land, and a garden pond constructed in front of it in imitation of the celestial pond of the Pure Land. Sometimes there is also a river or a wetland in the foreground which symbolically separated this world from the other Pure Land world.

Môtsû-ji Teien (garden) and Kanjizaiô-in Teien have been restored as gardens with trees and water. The other two gardens remain buried.

The nominated sites in total extend to 187.0ha; the buffer zone cover 5,998.0ha.

The property consists of the following:

- Chûson-ji - temple and buried garden remains
- Môtsû-ji - temple remains and reconstructed garden
- Kanjizaiô-in Ato - remains of temples and reconstructed garden
- Muryôkô-in Ato - site of temple and buried garden
- Mount Kinkeisan - sacred mountain
- Yanaginogosho Iseki - site of government offices

These are considered in turn:

- Chûson-ji - temple and buried garden remains
- The first Buddhist temple, built in the first quarter of the 12th century by the founder of the Ôshû Fujiwara family, was the spiritual heart of the city as well as a control point for its northern entry. In its heyday, the temple had as many as 40 pagodas and 300 priests' residences. Most of the buildings were lost in a fire in 1337 except for two Buddha Halls (Chûson-ji Konjikidô and part of the Chûson-ji Kyôzô), and two stone pagodas. In the early modern period 15 temples were reconstructed and the temple approaches laid out.

Sixty-nine excavations carried out since 1953 have revealed the remains of Buddha Halls and a pond garden called Ôikegaran Ato, which is likely to be the "Chingo-kokka-daigaran-ikku" (literally, a great temple complex for the pacification and protection of the nation) which is mentioned in *Chûson-ji Kuyôgammon*. The garden, now covered over, had a pond with a pebbled shore and central island to the east of the Buddha halls.

The main surviving 12th century building is the Chûson-ji Konjikidô (Golden Hall), a square wooden building with a one-storey pyramidal roof, the year 1124 engraved on the ridge pole. Within, the black lacquer structure is elaborately decorated with gold leaf and

4つの庭園はそれぞれ12世紀における浄土庭園の異なる発展段階を示しており、無量光院跡においてその最も高度に発展した事例を示しているとされる。

庭園の計画は同一軸線上に沿って配置される3つの要素、背景に置かれた浄土を象徴する山、浄土を物理的に具現化した仏堂、そして、聖なる池を模倣した仏堂前面の園池により特徴付けられる。

時には、現世と浄土世界とを象徴的に分かつため、河川や湿地が配されることもある。

毛越寺庭園及び観自在王院庭園は樹木と水を伴った庭園として修復されている。他の2つの庭園は埋蔵されたままである。

推薦資産は合計187.0ヘクタール、緩衝地帯は計5998.0ヘクタールとなる。

資産は以下により構成される。

- 中尊寺—寺院と埋蔵庭園跡
- 毛越寺—寺院遺構と復原庭園
- 観自在王院跡—寺院遺構と復原庭園
- 無量光院跡—寺院跡と埋蔵庭園跡
- 金鷄山—聖なる山
- 柳之御所遺跡—政庁の遺跡

これらは、順に、

- 中尊寺—寺院と埋蔵庭園跡

12世紀（第1四半期）に奥州藤原氏初代により築かれた最初の寺院であり、都市の精神的中心であるとともに北の入り口の統制拠点であった。最盛期には40もの仏塔と300の僧坊が存在した。2つの建物（中尊寺金色堂と中尊寺経蔵の一部）と2つの石塔を除き、大部分の建物は1337年の火災により焼失した。近世初期になって15の寺院が再建され、参道が配された。

1953年以来69回に亘って実施された発掘調査により大池伽藍跡と呼ばれる仏堂と園池の遺構が明らかになっている。これらは中尊寺供養願文に記される「鎮護国家大伽藍一区」であると見られている。庭園は現在埋蔵された状態にあるが、礫敷護岸と仏堂の東側に位置する中島とを伴っている。

現存する12世紀の建築物の中心となるのは中尊寺金色堂であり、単層宝形造の屋根を持つ方形の木造建築物で、棟木に1124年と刻銘されている。

黒漆を塗られた骨組みは金箔及びヤコウガイと紫檀を用いた象嵌により念入りに装飾され、48の菩薩像を伴う宝華唐草文と組み合わせられている。

225-R

mother of pearl and rosewood inlay, all combined in a floral Chinese arabesque style with forty-eight images of bodhisattvas. Originally built as a Pure Land Buddhist Amida hall, with a statue of the Amida Buddha in the centre of the altar, the building later became a mausoleum in which are the mummified remains of four lords of the Ōshū Fujiwara family in a gold-foiled coffin at the central altar. The mausoleum played a key religious role triggering and attracting worship in the process of the development of Hiraizumi as the political and administrative centre.

There are no records of other halls so completely covered in gold in the 11th and 12th centuries, making Konjikidō unique. However underneath the gold, its construction of a square building with pyramidal roof was unremarkable.

Chūson-ji Konjikidō is now encased within a concrete building for protection. Constructed in 1968 this replaced a 15th century protective 'sheath', Konjikidō Ōidō, which had a copper roof and open sides and is now reassembled nearby.

Nearby, Chūson-ji Kyōzō was constructed in 1122 with the lower storey reconstructed in the 14th century. It has a roof of copper shingles and inside is fitted with shelves for the storage of sutras.

Ganjōju-in Hōtō, and Shakuson-in Gorintō are two small stone pagodas, the latter with a date of 1169 inscribed on one side and the former believed to be of similar date.

- Mōtsū-ji - temple remains and reconstructed garden

This temple was originally constructed in the mid 12th century in a style similar to Hosshō-ji in Higashiyama, Kyoto, the Imperial family's temple. Mōtsū-ji temple controlled the southern entrance to the city and like the Chūson-ji temple was extensive with 40 halls, gardens and residential quarters for as many as 500 priests. The temple's splendour was reputed to be unmatched in Japan. The whole temple complex was orientated north-south, with Mount Tōyama forming the final backdrop to the north. The eastern end of the land divisions of Mōtsū-ji corresponds to an axis extending from the peak of Mt Kinkeisan toward the south.

The layout of the temple was apparently highly unusual with the primary object of worship the Lotus Sutra and Yakushi in multiple representations.

In the 13th and 16th centuries all the buildings were lost to fires.

Subsequently some new temple buildings have been added. At the north-eastern shore of the garden pond is the Jōgyōdō temple, a small-scale Buddha hall reconstructed in the 18th century where religious rituals and folk performing arts directly associated with the

当初は中央壇に阿弥陀仏を備えた浄土教における阿弥陀堂として建造されたが、後には、金箔で飾られた棺に奥州藤原氏 4 代のご遺体を納め、これを中央壇に納めた霊廟となった。霊廟は平泉が政治・行政上の拠点として発展していく過程において、崇拜を起こし魅了するものとして、宗教という点から重要な役割を担った。

11 世紀から 12 世紀においてこのように完全に黄金で覆われた仏堂の記録は他になく、それ故金色堂は独特のものとなっている。しかしながら、黄金の下、単層宝形造の方形建築自体は珍しいものではなかった。

中尊寺金色堂は、現在、保護のためコンクリートの建物に覆われている。このコンクリート建築物は 1968 年、15 世紀に保護のため設けられた「鞘堂」、すなわち「金色堂覆堂」と置き換えられたものである。銅板葺で側面が開かれた構造を持つこの覆堂は、現在この近くに移築されている。

隣接する中尊寺経蔵は 1122 年に建造されたものであり、1 階部分は 14 世紀に再建されたものである。屋根は銅板単層葺で、内部には経典を収めるための棚が設けられている。

願成就院宝塔及び釈尊院五輪塔は小型の石塔であり、後者の一側面には 1169 年という日付が刻まれている。また、前者も同年代のものと考えられている。

・毛越寺—寺院遺構と復原庭園

この寺は、当初京都東山の御願寺法勝寺と類似する様式で 12 世紀半ばに築かれた寺院であった。

毛越寺は都市への南側の入口を統制し、かつては中尊寺同様 40 を超える堂宇、庭園、500 以上の禅坊が存在していた。寺院の壮麗さは日本国内に並ぶものが無いほどのものとの名声を得ていた。寺院は全体として南北方向に向いており、塔山が北側の最背景となっている。毛越寺の区画東辺は、金鶏山の頂上から南側に向けた軸の延長に対応している。

寺院の配置は、法華と薬師を本尊とする信仰が多面的に表現される点において、極めて独自性の高いものであった。

13 世紀から 16 世紀の間に、すべての建築物は火災により焼失した。

それ以降も新たな寺院の建築が続けられた。園池の北東岸には 18 世紀に再建された小規模な仏堂である常行堂がある。ここでは 12 世紀、仏国土（浄土）と直接的に関連する宗教的な儀式や民俗芸能が行われており、今なお続けられている。

Buddhist Pure Land in the 12th century are still carried out today.

Excavations between 1930 and 1990 have revealed foundations of major buildings, a street, guardian shrines that protected Hiraizumi in its four orientations, and particularly the layout of two Pure Land gardens, Mōtsū-ji Teien and Kanjizaiō-in Teien (see below).

Mōtsū-ji Teien and Kanjizaiō-in Teien have been restored as gardens with trees and water.

Mōtsū-ji Teien has as a central feature a pond called Ōizumigaike, which extends to 190 metres by 60 metres. The pebbled shoreline has been restored as a result of excavations between 1980 and 1990. The whole layout contains a variety of elements such as an island, cove beach (*suhama*), cape (*dejima*), vertical stone (*tateishi*) and a 4 metre high artificial hill (*tsukiyama*). On the northeast shore a garden stream flows in. Measuring approximately 80 metre in length and 1.5 metre in width, it is the longest example in Japan of a garden stream revealed through archaeology almost in its original condition; it was restored in 1988.

The way the layout of the garden respects and imitates nature follows closely the precepts of *Sakuteiki*, a late 11th century technical treatise on garden making.

- Kanjizaiō-in Ato – remains of temples and reconstructed garden

To the east of Mōtsū-ji temple, excavations revealed the layout of Kanjizaiō-in Ato Temples and its Pure Land Garden.

There are the foundations of the main temple buildings such as the Dai-amidadō (Larger Amida Hall) and the Shō-amidadō (Smaller Amida Hall) in the northern quarters of the compound and the garden to the south. The garden consists of a simple large pond some 100 metres across with a central island, and around the west of the shore large stones assembled as a waterfall. To the north are the foundations of the two Amida halls and beyond in the background Mount Kinkeisan. The garden has been restored.

The pond is called Maizurugaikē (literally, the pond of the dancing crane) and its shape is consistent with guidelines in the *Sakuteiki*, which state that "Ponds should be constructed in the shape of a tortoise or a crane." In addition, the shape of the white shore along the shoreline of the pond, the arrangement of garden stones and the structure of the waterfall stonework near the centre of the west shore also correspond to the teachings of the *Sakuteiki*.

The garden originally started out as a private garden and was later converted into a garden for a temple. It is not aligned towards the east as other gardens are.

1930年から1990年にかけて行われた発掘調査により、主要な建物の基壇や街路、平泉の四方を守る鎮守社の基礎などが明らかとなり、特に毛越寺庭園と観自在王院庭園の2つの庭園の配置が明らかとなった（以下参照）。

毛越寺庭園と観自在王院庭園は植樹と水張りにより庭園として復原されている。

毛越寺庭園の中心施設となるのが、大泉が池と呼ばれる池で、190メートル×60メートルの広がりを持つ。1980年から1990年にかけての発掘調査の結果、礫敷護岸が復元されている。全体の構成としては中島、州浜、出島、立石、高さ4メートルに及ぶ築山など、多様な要素を含んでいる。池の北東岸は遣水が流れ込んでいる。長さおよそ80メートル、幅およそ1.5メートルのこの遣水は、考古学をとおして明らかになった当時の状態をほぼそのまま留めている遣水としては、日本国内最長の事例である。それは、1988年に修復された。

自然を尊重し、自然に倣うこの庭園の配置方法は、11世紀後半に書かれた庭園作成の技術書「作庭記」の教えに従うものである。

・観自在王院跡—寺院遺構と復原庭園

毛越寺の東では、発掘調査により観自在王院跡とその浄土庭園との配置が明らかにされている。

境内北半部に中心的な寺院建築である大阿弥陀堂と小阿弥陀堂の基壇が池を南側に置いて位置している。庭園は中島を伴う径100メートルほどの簡素な大きな池という構成であり、池の西岸付近には大きな石が集められ滝となっている。北側には2棟の阿弥陀堂の基壇とその背景に金鶏山がそびえる。庭園は復元されている。

池は舞鶴が池と呼ばれ、その形は作庭記にみる「池は亀か鶴の形に掘るべし」という記述に一致する。また、池の水際の白浜の形状、景石の配置、西岸中央部付近の滝石組の構造も『作庭記』の記述に対応している。

この庭園は当初個人庭園として作られたが、後に寺院に付設する庭園に作り替えられた。他の庭園のように東を向いてはいない。

• Muryōkō-in Ato – site of temple and buried garden
This is the archaeological remains of a temple constructed in the late 12th century by the 3rd lord of the Ōshū Fujiwara family and burned down in the mid 13th century. The whole site was rectangular in shape and protected in part by earth mounds and moat. Within, was a highly developed Pure Land garden with a pond and two islands.

Currently the remains of the temple and garden are covered over by rice fields.

• Mount Kinkeisan – sacred mountain
This small mountain, some 100 metres high, was a central reference point for the development of the city – being directly to the north of Mōtsū-ji and west of Muryōkō-in Ato. The Ōshū Fujiwara family were said to have buried sutras on its summit – and nine such mounds have been identified.

• Yanaginogosho Iseki – site of government offices
The Yanaginogosho Iseki is the archaeological site of a residence-government office of the Ōshū Fujiwara clan constructed at the end of the 11th and early 12th centuries. Seventy excavations have been carried out on the site which is seen as the political and administrative centre of Hiraizumi. Part of the site was enclosed by a moat and within has been found remains of 12th century road-like structures, fences, building posts and a pond. Outside the moated area are remains of a road leading west to Chūson-ji Konjikidō with evidence for vassals' houses along each side.

All the excavations are to be preserved underground. The pond has been reconstructed on the surface of a protective mound to represent its original form. An overall presentation plan has been developed to be implemented over the next seven years.

A new bypass, bridges and various other development projects have recently been carried out near the site (see below).

Spatial layout of Pure Land gardens that reflects the cosmology of Pure Land Buddhism

Buddhism was born in India and introduced into Japan from China and Korea around the mid 6th century. It underwent fusion with traditional Shinto beliefs associated with nature and ancestor worship, particularly manifest in the Tendai sect of Buddhism. In the 8th century the Pure Land Buddhism spread to Japan, and by the 12th century had become a separate sect. The Pure Land was both Amida Buddha's Pure Land which people aspired to after death and peace of mind in this life. Faith in Amida Buddha's Pure Land in the west in particular, combined with the idea of the built landscape being in harmony with the environment and thus reflecting the Pure Land, spread rapidly in the capital city Kyoto and then throughout Japan.

・無量光院跡—寺院跡と埋蔵庭園跡

12 世紀後半に奥州藤原氏の第三代領主により築かれた寺院の遺跡であり、13 世紀半ばに焼失している。遺跡全体は矩形をなし、その一部は土塁と堀で守られていた。その内側は池と 2 つの中島を伴った最高に発展した浄土庭園であった。

現在、寺院と庭園の遺跡は水田に覆われている。

・金鷄山—聖なる山

高さ 100 メートルほどのこの小さな山は、毛越寺の真北、無量光院の西に位置しており、都市の発展における主要な基準点であった。奥州藤原氏は山頂に経典を埋めたと伝えられており、そうした経典を埋めた塚が 9 つ確認されている。

・柳之御所遺跡—政庁の遺跡

柳之御所遺跡は、11 世紀の終わりから 12 世紀のはじめにかけて築かれた奥州藤原氏の居館の考古学的遺跡である。70 回に及ぶ調査は、この遺跡が平泉の政治・行政上の拠点であることを伺わせている。遺跡の一部は周囲を堀で囲まれ、堀の内部では 12 世紀の道路状遺構や、塀、柱穴や池の遺構が見つまっている。堀外部地区には、西の中尊寺金色堂に通じる道路遺構が、両側に家臣の住居遺構を伴って存在している。

すべての発掘物は地下に保護されている。池は保護のための盛土の上に元の池と同じ形に復元されている。提出されている全体整備計画が、向こう 7 年間のうちに実施されるとしている。

現在、新しいバイパス道路や橋、その他様々な開発計画が資産の近傍で実施されている（以下を参照）。

浄土庭園の空間構成は仏教の浄土思想を反映したものである。

仏教はインドで生まれ、中国、朝鮮を経由して 6 世紀半ばに日本に伝来した。伝来した仏教は、とりわけ、天台宗の中に明確に示されている自然及び祖先信仰とに関連した日本古来の神道思想と融合していった。浄土思想は 8 世紀に日本に広がり、12 世紀にはひとつの分派を形成した。浄土は、死後に往生を願う阿弥陀の浄土と、現世における心の平穏とであった。特に、阿弥陀如来の西方極楽浄土への信仰は、周囲の環境と調和してつくられた景観が浄土を映しているという概念と結びつき、当時の首都である京都のみならず日本全国に急速に広がっていった。

Today Pure Land is, together with Chan (Zen), the dominant form of Buddhism in China, Korea, Japan, Taiwan, and Vietnam.

In the history of Japanese architecture, the period from the 11th century to the 12th century is characterized by the construction of many Amidadô (Amida halls) throughout Japan as these were seen as 'good deeds' that would help rebirth in the Pure Land in the West. In Hiraizumi, Chûson-ji Konjikidô is an Amida hall of particularly elaborate character.

Gardens were also developed and they in particular are seen to reflect the fusion between Pure Land Buddhism and Shintoism in respecting naturally occurring rocks, trees and mountains. Pure Land Gardens had ponds with curved rocky shores in contrast to the formal rectangular ponds of Buddhist temples in India, or those depicted in sutras or in the mural paintings of the Mogao grottoes, China.

In Hiraizumi the three main temples and gardens are positioned at key points of the city, and were linked to the sacred mountain, Mt Kinkeisan, and Yanaginogosho, the government offices, by axial planning in which directions and orientations had special significance.

There appears to be no contemporary documentary evidence for linking the gardens with Pure Land Buddhism; rather the design and layout of the gardens seems to mirror images in 11th and 12th century sutras from Hiraizumi, which depict the Pure Land of Ultimate Bliss.

Hiraizumi's temples and gardens served as a model for temples and gardens built elsewhere in Japan, including Yôfuku-ji in Kamakura (1189-1405), Ganjô-ji in Shiramizu (built in 1160 and still extant, in Iwaki city, Fukushima Prefecture), and more.

History and development

Fujiwara no Kiyohira, the founder of the Ôshû Fujiwara family, transferred his residence to Hiraizumi in the beginning of the 12th century and set about constructing a country based on Buddhism. The remains of the city reflect the idea of building in harmony with nature, while the gardens make more specific reference to the focal mountains around the plain and the alignment of water, buildings and the mountain peaks.

The city developed over a period of around 100 years, its prosperity based on wealth accumulated from gold production. A grid pattern system of streets was laid out, aligned north-south and east-west. A port was constructed on the river and guardian shrines placed at the four compass points around the city. In the centre the administration, the main temple and the main residential space were aligned east to west, with the backdrop of Mount Tabashineyama in the east enhanced with the planting of cheery trees –

今日、浄土は禅とともに中国、朝鮮、日本、台湾そしてベトナムにおける仏教の多数派を占める。

日本の建築史において、11世紀から12世紀という時期は日本中に阿弥陀堂が数多く建立されたことに特徴づけられるが、これは、阿弥陀堂の建立が極楽浄土に往生するための「作善」と捉えられていたことによる。平泉においては、中尊寺金色堂がとりわけ精巧な特質の阿弥陀堂である。

庭園も同様に発展を遂げ、とりわけ、浄土思想と、自然に存在する岩や樹木、山を大切にする神道とが融合した思想を反映していると考えられている。浄土庭園の池が持つ、曲線的で、岩の多い汀線は、インドや、経典あるいは中国の莫高窟の壁画に描かれている整然とした方形の池とは対照をなしている。

平泉では、3つの主な寺院と庭園が都市の要所に立地し、聖なる山である金鶏山と政庁である柳之御所との間に、位置や方向に特別な意味を持たせた軸線上の関係により結ばれていた。

庭園と浄土思想とが結びついていたことを証明する同時代の文書は存在しないと見られる。むしろ、庭園の意匠や配置は、西方極楽浄土が描写された11世紀から12世紀の平泉の経典の中で描かれている図像を写していると考えられる。

平泉の寺院や庭園は日本の他の地域で建立された寺院や庭園の原型ともなり、それは鎌倉の永福寺(1189-1405)、白水の願成就院(1160年建立、現存、福島県いわき市)などに見ることができる。

歴史と発展

奥州藤原氏の創始者清衡は12世紀初め、自らの居館を平泉に移し、仏教に基づく国づくりを始めた。都市の遺構は自然と調和した建築思想を反映しており、他方、庭園は、平野の周囲にある基準となる山々や水の統制、建物、山頂と具体的な関連を持たせていた。

都市はおよそ100年にわたり発展を遂げたが、繁栄の源泉は産金により蓄積された富であった。南北東西に碁盤目状の街路が配置された。河川には港が設けられ、都市の四方には鎮守社が建立された。中央には行政府、主要な寺院と住居とが東西軸に沿って配され、さらにその東の延長線上には桜の植樹によって価値が高められた東稲山が背景となった。これはおそらく京都の貴族達の影響を受けたものと考えられる。この「精神軸」は浄土思想に基づくものと言われている。

presumably under the influence of Kyoto aristocrats. This 'spiritual axis' is said to be based on Pure Land Buddhism.

In 1189 the city was destroyed by the Kamakura Shogunate: the buildings were torched and the role of Hiraizumi as a political and economic centre came to an end. However temples that survived were revered and cared for. On the centenary of the passing of the Ôshû Fujiwara family, the Kamakura Shogunate constructed a shelter building for the Chûson-ji Konjikidô as a memorial to the souls of the family. Of those temples that remained, more were burnt in fires in 13th and 14th centuries. By the end of the 14th century, only two of the 12th century temples remained: Chûson-ji Konjikidô and part of the Chûson-ji Kyôzô, both of which still survive today.

Between the 14th and 16th centuries with the advent of the Nambokucho Period and the Muromachi Shogunate, the upkeep of the temples depended on feudal lords such as the Kasai family and the generosity of pilgrims, who by that time were attracted in large numbers.

From 1603 when the Edo Shogunate was set up in Edo (now Tokyo) until 1869, Hiraizumi was put under the control of the Sendai governor (Han). In 1689 a prohibition was placed by the governor on removing stones from Buddhist temples and cedar trees planted in and around archaeological sites to aid their protection. Following a visit by the Meiji Emperor in 1876 preservation projects were started on Chûson-ji and Môtû-ji.

Such was the spectacular rise and conspicuous wealth of Hiraizumi and its equally rapid and dramatic fall, that it became the source of inspiration for many poets. In 1689, Matsuo Basho, perhaps the most famous Haiku poet, wrote: '*Three generations of glory vanished in the space of a dream...*'

Today the centre of Hiraizumi still attracts many pilgrims as well as tourists.

3 Outstanding Universal Value, integrity and authenticity

Comparative analysis

The revised comparative analysis provided by the State Party, as requested by point 2.a of Decision 32 COM 8B.24, explores properties inscribed on the World Heritage List or on Tentative lists in Asia and the Pacific Region associated with:

- 1) Buddhist properties where the component parts include architecture that enshrines Amida Buddha.
- 2) Buddhist properties where the component parts include gardens made for the purpose of representing a Buddhist Pure Land.

1189 年、都市は鎌倉幕府によって破壊され、建物は火を放たれ、平泉の政治・経済上の役割は終焉を迎えた。しかしながら、破壊を免れた寺院群は崇拝され保護された。奥州藤原氏が没して 100 年の後には、鎌倉幕府が藤原氏の魂の追悼のために中尊寺金色堂に覆堂を建立した。残されたこうした寺院のほとんども、13 世紀から 14 世紀の火災により焼失した。14 世紀の終わりには、12 世紀の建築物は 2 棟を残すのみであったが、それが中尊寺金色堂と中尊寺経蔵の一部であり、それらは今なお現存している。

14 世紀から 16 世紀には、南北朝時代及び室町幕府の到来によって、寺院は葛西氏のような封建領主の庇護を受けるとともに、その頃までに多数となっていた巡礼者の寄進によって維持されてきた。

1603 年、江戸（現在の東京）に江戸幕府が成立してから 1869 年にいたるまでは、平泉は仙台藩の支配下に置かれた。1689 年には寺院の礎石の持ち去りを禁止する旨が藩主から出され、考古学的遺跡の保護に資するため、その周囲に杉が植樹された。1876 年明治天皇の行幸に続いて、中尊寺と毛越寺の保存事業が開始されることとなった。

そのような平泉のめざましい繁栄と顕著な富とともに、その急速で劇的な没落は、多くの詩歌を喚起する素材となった。1689 年には、おそらく最も有名な俳人である松尾芭蕉により、「三代の栄耀一睡の中にして…」と書き残されている。

今日、平泉の中心部は、今なお多くの観光客や参拝者を惹きつけている。

3 顕著な普遍的価値、完全性、真実性

比較分析

32COM8B.24 の 2.a で締約国が求められ、提出された改定比較分析は、アジア・太平洋地域における世界遺産リスト又は暫定リスト登載資産のうち、以下の事項に関係するものについて、行われている。

- 1) 仏教資産のうち、構成資産に阿弥陀堂建築を含むもの。
- 2) 仏教資産のうち、構成資産に仏国土（浄土）を表現することを目的とした庭園を含むもの。

The property is compared with the following already inscribed properties in Japan: Buddhist Monuments in the Horyu-ji Area (1993, criteria (i), (ii), (iv) and (vi)), Historic Monuments of Ancient Kyoto (1994, criteria (ii) and (iv)), Historic Monuments of Ancient Nara (1998, criteria (ii), (iii), (iv) and (vi)), Shrines and Temples of Nikko (1999, criteria (i), (iv) and (vi)), Sacred Sites and Pilgrimage Routes in the Kii Mountain Range (2004, criteria (ii), (iii), (iv) and (vi)) and with 3 sites on the Tentative List. From this analysis ICOMOS considers that it is clear that apart from some similarities with Horyu-ji Area, there are no inscribed properties that have a similar combination of value and attributes, and there are none on the Tentative List.

The property is further compared with other sites in Japan that are not on the Tentative List. This comparison is made first with buildings and then with gardens – even though the nominated property is a combination of both, that reflect Pure Land Buddhism. Of these the most relevant comparisons are with the Pure Land Gardens of Ganjō-ji, Jōruri-ji and Enjō-ji. It is said that the difference between these and those of Hiraizumi is in the direction of the framing mountains and the fact that there are not examples that can be linked in detail with the teachings of the *Sakuteiki*, the 11th century technical treatise on garden-making, as is the case with the gardens of Mōtsū-ji and Kanjizaiō-in. However the gardens described are ones that have survived rather than being reconstructed and the gardens of Hiraizumi cannot be linked directly to *Sakuteiki* but only through stylistic similarities.

The analysis also includes comparisons with 28 properties either inscribed or on Tentative Lists outside Japan. Some of these are not relevant as they do not have gardens or are not associated with Buddhism such as Taj Mahal, Preah Vihear, and Lhasa. The closest comparator is Bulguksa Temple, Korea. Kyongbok, Korea is also mentioned – but this is erroneously said to be associated with Buddhism whereas it is part of a Royal palace of the Joseon Dynasty and has nothing to do with Buddhism.

Overall the analysis shows that for Hiraizumi to be considered as the exemplar of Pure Land Gardens, it needs to be accepted that the Pure Land Gardens are the only surviving examples of gardens oriented towards the west – rather than to the north as is the case for some of the other surviving gardens – and that they are associated with Halls that house statues of the Amida Buddha (although this is only true for one of the Hiraizumi gardens).

ICOMOS considers that there are other Pure Land Gardens that do convey the ideals to which the gardens were aspiring. However, ICOMOS further considers that what differentiates the Pure Land Gardens of Hiraizumi is their close association with the seat of political power and its wealth, and the fact that a group of four have survived as archaeological sites, one with a notable temple, Chūson-ji with its statue of

資産は、すでに日本で記載された資産と比較されている。法隆寺地域の仏教建造物（1993、i、ii、iv）、古都京都の文化財（1994、ii、iv）、古都奈良の文化財（1998、ii、iii、iv）、日光の社寺（1999、i、iv、vi）、紀伊山地の霊場と参詣道（2004、ii、iii、iv、vi）、さらに、3件の暫定リスト記載資産と比較されている。これらの分析結果から、平泉の価値は法隆寺地域に見られるいくつかの共通性を除いて、同様の価値や属性の組み合わせを持った資産は世界遺産リストに記載されておらず、暫定リストにもそうした資産はないことが明らかになったものとイコモスは考える。

資産はさらに、暫定リストに登載されていない国内の対象とも比較されている。資産は浄土教を反映した建築物と庭園双方の組み合わせについてのものであるが、この比較は最初に建築物について、次いで庭園について行われている。このうち最も関連する比較は願成寺、浄瑠璃寺、円成寺の浄土庭園とのものである。これらの資産と平泉との違いは、空間構成に組み込まれた山への方位の取り方と、毛越寺や観自在王院に見られるような11世紀の作庭技術書「作庭記」の教えに細部で照合できる事例ではないという事実である。しかしながら、ここで述べられている庭園は復原というよりは現在まで存続しているものであり、平泉の庭園は作庭記と直接的というよりもその様式の共通性という点からのみ結びついていると言わざるを得ない。

また、比較分析は国外の世界遺産・暫定リスト記載遺産 28件をも対象としている。タージマハル、プレアビヒア、ラサなど、それらのうちのいくつかは、庭園を持たないかもしくは仏教に関連しないという点で、関係性を持たない。最も密接に関連する比較対象は韓国の仏国寺である。韓国の景福宮についても記述されているが、本資産は朝鮮王朝の王宮に付設する庭園であり、仏教との関わりは一切無いにも関わらず、仏教と関連すると誤って述べられている。

全体として比較分析は、平泉が浄土庭園の典型であり、浄土庭園が一他の残存事例にあるように北向きではなく一西向きの庭園の事例で、かつ、阿弥陀仏を安置する仏堂に関係する今に残る唯一の事例であることを示すものであることは認められる（ただし、この典型として当てはまるのは平泉の庭園でも一例のみである。）。

イコモスは、理想世界を表現しようとする理念が込められた浄土庭園は他にも存在するものと考え。しかしながら、平泉の浄土庭園の際立った特徴は、その政治権力や富と密接に関わり、一群の4つの庭園が考古学的遺跡として残存し、うち一つが著名な寺院である阿弥陀仏を伴う中尊寺に付随し、他の3つの庭園が、金鶏山と軸線上の関係性を持つことである、とイコモスは考える。

the Amida Buddha, and that three gardens aligned to Mount Kinkeisan.

The comparative analysis has justified the selection of the four Pure Land gardens and Mount Kinkeisan but not the relevance of Yanaginogosho Iseki, the administrative area, as an attribute related to the pure land gardens.

ICOMOS considers that the comparative analysis justifies consideration of this property for inscription on the World Heritage List.

Justification of Outstanding Universal Value

The nominated property is considered by the State Party to be of Outstanding Universal Value as a cultural property for the following reasons:

- Hiraizumi is the political and administrative centre of the northern realm of Japan that was established in the 12th century by the Ōshū Fujiwara family based upon Pure Land Buddhist cosmology.
- The temples that served as its spiritual cornerstone and the residence-government office that formed its political and administrative nexus, demonstrate a unique pattern of regional rule with a religious core.
- The vestiges of the major political and administrative facilities are preserved underground in perfect condition, whereas the existing temple architecture and gardens exhibit themselves as outstanding works of space design embodying the Pure Land world.
- The temples and gardens illustrate the process by which concepts, design, and techniques of temple construction adopted along with Buddhism fused with Japanese indigenous concepts, styles, and techniques, to give rise to unique concepts, design, and techniques of temple architecture and Pure Land garden construction that incorporated the surrounding natural landscape and topography into a spatial representation of the Buddhist Pure Land.
- The temples, gardens and archaeological sites of Hiraizumi are indicative of an interchange of human values attendant upon the transmission and spread of Buddhism and Buddhist Pure Land thought, which had a decisive impact on temple architecture and gardens. Not only the surviving above-ground elements, but also the archaeological remains are outstanding examples of an important stage of human history in the fields of design and techniques of architecture and gardens.
- Religious rituals and rites have been inherited up to the present, carrying on with them the quintessence of Pure Land cosmology.

ICOMOS considers that the four Pure Land Gardens do demonstrate the fusion between Buddhist and indigenous Japanese concepts relating to the relationship between gardens, water and the surrounding landscape. ICOMOS also considers that these are not the only gardens that reflect this fusion.

比較分析の結果、4つの浄土庭園と金鶏山の選択の妥当性が証明されているが、行政府である柳の御所遺跡については、浄土庭園に関する属性という点において関連性が証明されていない。

イコモスは、以上の比較分析が、この資産について世界遺産リストへ記載されることについての妥当性を証明していると考えられる。

顕著な普遍的価値の証明

推薦資産は、締約国により、以下の理由から文化遺産として顕著な普遍的価値を持つとされている。

- ・平泉は、仏教における浄土思想に基づき奥州藤原氏により形成された、12世紀の日本の北方領域における政治行政上の拠点である。
- ・精神的基盤をなす寺院と、政治・行政上の拠点の中核をなす政庁（居館）とは、宗教を核とした地方統治の独特の型を示すものである。
- ・主要な政治行政上の施設の遺構は地下に完全な状態で保存されており、他方で、今に残る寺院建築と庭園は、それ自体が浄土の世界を現出する空間構成を持つ顕著な作品であることを示している。

- ・寺院と庭園は、日本古来の理念、様式、技術が、仏教とともに採用された寺院造営の概念、様式、技術と融合し、独特の寺院造営の概念、意匠、技術へと昇華したこと、及び、自然景観や地形と調和した浄土庭園の造営が、仏国土（浄土）の空間的表象となったことの過程を示している。

- ・平泉の寺院、庭園及び考古学的遺跡群は、仏教と浄土思想の伝播と普及に伴う人類の価値観の交流を示すものであり、それらは、寺院建築や庭園に決定的な影響を与えた。地上に現存しているもののみならず、考古学的遺跡も、建築と庭園の意匠・技術という分野における人類の歴史の重要な段階を表す顕著な事例である。

- ・宗教的儀礼や儀式も浄土思想の神髄と共に今日まで受け継がれている。

イコモスは4つの浄土庭園が、庭園と水と周囲の景観との関連性に関して、仏教と日本に土着の概念との融合を強く証明していると考えられる。同時に、イコモスはこれらの庭園のみがこの種の融合を示すものではないとも考える。

As the comparative analysis has shown, the four Hiraizumi gardens can be considered exceptional if they are seen as a group of four, with one having a surviving notable temple, three aligned on Mount Kinkeisan, and all reflecting the wealth that characterised Hiraizumi as the seat of power in the 12th century. Hiraizumi influenced other cities, notably Kamakura where one of the temples was based on Chûson-ji.

ICOMOS also acknowledges that the resulting concept of planning and garden design was unique to Japan, and influenced gardens and temples in other cities, notably Kamakura where one of the temples was based on Chûson-ji.

ICOMOS does however not consider that the Yanaginogosho Iseki administrative area can be considered as an attribute of outstanding universal value.

Integrity and authenticity

Integrity

The nominated areas of Chûson-ji, Môtsû-ji, Kanjizaiô-in Ato, Muryôko-in Ato, Mt Kinkeisan and Yanaginogosho Iseki encompass all the buildings, structures, archaeological sites and restored gardens.

In the original nomination the layout of Hiraizumi as a whole was also said to be influenced by Pure Land Buddhism. This link has not been stressed in the revised nomination where it is the links between the individual temple complexes, Mount Kinkeisan and Pure Land Buddhism that are stressed.

Although the sites of Chûson-ji, Môtsû-ji, Kanjizaiô-in Ato and Mt Kinkeisan conserve their visual links in a complete manner, at the Muryôko-in site, more than 20 houses, wire poles and other structures are sited along the east side of Sakashita Lane that runs cross the site while on the west part of the Yanaginogosho Iseki site, over 40 houses constitute a negative influence on the visual integrity of the site.

In terms of the visual links between Kanjizaiô-in Ato, Muryoko-in, Yanaginogosho Iseki and Mt Kinkeisan, wire poles and an iron tower between Yanaginogosho Iseki and Mt Kinkeisan have a negative influence on the visual integrity, although the visual links between the other two component parts, Kanjizaiô-in Ato and Muryoko-in, and Mt Kinkeisan are intact. The visual relationships of Chûson-ji Temple and Môtsû-ji Temple within their respective surrounding mountains and forests are also intact.

In the more narrow sense of the individual sites (apart from Yanaginogosho Iseki) and their links to Mount Kinkeisan reflecting ideas of Pure Land Buddhism rather than the way the links between sites across the city reflect spatial and visual links related to Pure Land

比較分析により証明されたように、現存する素晴らしい寺院を伴った庭園1つと、金鶏山に位置をあわせた他の3つの庭園とによる平泉の4つの庭園は、それをひとつの群として考えるのならば顕著な事例と捉えうるものであり、総じて12世紀における権力の中核としての平泉を特徴づける、その富を反映したものである。平泉は他の都市にも影響を与え、中でも鎌倉には中尊寺に基づく寺院が存在した。

また、イコモスは、結果として生じる設計概念と庭園意匠が日本に独特であり、他の都市における庭園や寺院に影響を与えた、特に、鎌倉の寺院のうちのひとつが、中尊寺に範をとっていたことを認める。

しかしながら、イコモスは、行政拠点である柳之御所遺跡について、顕著な普遍的価値の属性として認めることはできない。

完全性と真実性

完全性

推薦範囲である中尊寺、毛越寺、観自在王院跡、無量光院跡、金鶏山、そして、柳之御所遺跡には、すべての建築、構造物、考古学的遺跡と修復された庭園が含まれている。

当初の推薦では、平泉の配置全体もまた浄土思想の影響を受けているとされていた。改定推薦書ではこうした全体としての結びつきは強調されておらず、個別の寺院群及び金鶏山と浄土思想との結びつきが強調されている。

中尊寺、毛越寺、観自在王院跡及び金鶏山は視覚的関連を完全に保持しているものの、無量光院跡では、20以上の家屋、電柱や他の工作物が、遺跡を横切る坂下線の東側に沿って存在しており、他方、柳之御所遺跡の西側では、40以上の家屋が遺跡の視覚的完全性に負の影響を与えている。

観自在王院跡と無量光院、柳之御所遺跡、金鶏山との間の視覚的関連に関しては、柳之御所遺跡以外の2つ資産観自在王院跡・無量光院と金鶏山との間にある視覚的関連が損傷を受けていないのに対し、柳之御所遺跡と金鶏山との間では電柱や鉄塔が視覚的完全性に負の影響を与えている。中尊寺と毛越寺におけるそれぞれの周囲の山々や森林との視覚的関連性についてもまた、損傷を受けていない。

より狭義の意味合いにおける個別資産（柳之御所遺跡を除く）と金鶏山との結びつきは、都市を横断する遺跡間の結びつきの在り方が浄土思想と関連した空間的、視覚的関連を反映しているというよりも、むしろ、浄土思想の理念を反映したものである。

229-R

Buddhism, ICOMOS considers that the integrity of the property can be seen to be satisfactory, although the visual links between the temples and Mount Kinkeisan span areas outside the nominated property.

None of the individual sites is under threat.

Authenticity

The nominated property contains excavated sites, surviving buildings, and reconstructed gardens. These are considered separately.

There is no doubt of the authenticity of the excavated remains. Two of the gardens have been reconstructed and this work has been underpinned by rigorous analysis of the built and botanical evidence.

For the surviving structures, the main building Chûson-ji Konjikidô is a remarkable survival and has been conserved with great skill in a way that ensures its authenticity of materials and construction. It is however now surrounded by a concrete sheath building whose construction bears little relationship to the craftsmanship that characterized Hiraizumi. There is a tradition of protecting valued buildings with outer or sheath buildings, as Chûson-ji Konjikidô was in the 13th century and its sheath was repaired and reconstructed in the 16th century. The concrete building put up in 1968 serves well to protect the original structure but takes away from the relationship between the temple and its surroundings and tends to turn it into a museum object. The authenticity of the temple in its landscape has therefore to a certain extent been compromised.

A few houses still remain on some of the underground archaeological sites, and deliver a negative influence on the landscape of the property. For example, there are houses, roads and wire poles on the Muryôko-in and Yanaginogosho Iseki sites.

In order to mitigate the negative influence of a new raised National Route on the landscape and setting of the Yanaginogosho Iseki site, a protection embankment has been built between the road and the site.

Authenticity relates to the ability of the property to convey its value. In the case of these four temple complexes (excluding Yanaginogosho Iseki), it is essential that they are able to convey in an inspiring way their association with the profound ideals of Pure Land Buddhism. Retaining authenticity means more than protecting just the built and architectural remains.

ICOMOS considers that the authenticity of the built, archaeological and reconstructed remains is satisfactory; that overall spatial integrity is slightly limited as the integrity of the spatial landscape relating to Pure Land cosmology extends beyond the nominated sites and some the visual links between

それゆえ、寺院群と金鶏山との視覚的結びつきの範囲は推薦資産の範囲外に及んでいるものの、イコモスは資産の完全性は満足されていると考える。

個別の遺跡への脅威は今のところ存在しない。

真実性

推薦資産は発掘された遺跡、現存する建物、復原された庭園を包含する。これらを個別に検討する。

発掘された遺跡の真実性は、揺るぎがない。庭園群のうち2つは復原されたものであり、復原作業は建築及び植物に関する物証の厳密な分析により実証されてきている。

現存する構造物のうち、主たる建築である中尊寺金色堂は顕著な遺存物であり、材料・構造の真実性を保証する卓越した技術により保全されてきた。しかしながら、現在、平泉に特徴的な技術とほとんど関係の無い構造を持つコンクリート製の覆屋で覆われてしまっている。中尊寺金色堂で13世紀に覆屋が設けられ、16世紀に修復、再建されたように、貴重な建築物を覆屋で守る伝統がある。1968年に設けられたコンクリートの覆屋は、元々の構造物の良好な保護を実現しはしたが、反面、寺院とその周囲との間との関連性を切り離し、それを単なる博物館展示物のひとつとしてしまうものである。そのため、その景観の観点において寺院が有する真実性は、一定程度損なわれてしまっている。

地下に遺跡が埋蔵された地域にも家屋がいくつか残っており、資産の景観に負の影響を及ぼしている。例えば、無量光院や柳之御所遺跡では、家屋、道路、電柱が存在する。

新たに建設された国道が柳之御所遺跡の景観と周辺環境に及ぼす負の影響を軽減するため、道路と遺跡の間には保護土塁（盛土）が築かれている。

真実性は、資産の価値伝達能力に関係する。4つの寺院群（柳之御所遺跡を除く）の場合について言えば、浄土思想の深遠なる理想との関連性を想起させて伝達できることが不可欠である。真実性の保持は、現存する建物や建築物の遺構のみを保護する以上のことを意味している。

イコモスは、建物と考古学的遺跡、あるいは再建された遺跡については、真実性が充足されていると考えるが、浄土思想に関連する空間的な完全性が資産の範囲を越えていること、そして、視覚的繋がりが幾分妥協的であることから、空間的な完全性は総体としてやや限定的である。様々な家屋や他の構造物が、無量光院と柳之御所遺跡の価値伝達能力に影響を及ぼしている。

sites are compromised. Various houses and other constructions impact on the ability of Muryōko-in and Yanaginogosho Iseki to convey their value.

ICOMOS considers that the conditions of integrity and authenticity have been met although various structures impact adversely on the ability of the property to fully convey its value.

Criteria under which inscription is proposed

The property is nominated on the basis of cultural criteria (ii), (iv), and (vi).

Criterion (ii): exhibit an important interchange of human values, over a span of time or within a cultural area of the world, on developments in architecture or technology, monumental arts, town-planning or landscape design;

This is justified by the State Party on the grounds that the group of temples, Pure Land gardens, and archaeological sites is an outstanding example of an attempt to give spatial representation to an ideal Buddhist Pure Land on this earth. They reflect the way Buddhism, after its transmission to Japan from China and Korea beginning in the 6th century developed certain uniquely Japanese characteristics as it fused with an indigenous Japanese ethos of nature worship. They also reflect fusion of Chinese and Korean concepts of garden design with Japanese indigenous concepts, styles, and techniques developed in association with sacred sites located near bodies of water. These fusions occurred in Hiraizumi and were then transmitted in Japan. Thus, the nominated property exhibits an important interchange of human values in East Asia with regard to the conceptions, design and techniques of architecture and gardens.

ICOMOS considers that the layout of the temples and Pure Land gardens do demonstrate in a remarkable way how the concepts of garden construction introduced from Asia along with Buddhism evolved on the basis of Japan's ancient nature worship, Shintoism, and eventually developed into a concept of planning and garden design that was unique to Japan. The gardens and temples of Hiraizumi influenced those in other cities, notably Kamakura where one of the temples was based on Chūson-ji.

ICOMOS however considers that what has not been demonstrated is how the archaeological site of Yanaginogosho Iseki, contribute towards the justification.

ICOMOS considers that this criterion has been justified for the temple complexes with their Pure Land Gardens but not for the administrative site of Yanaginogosho Iseki.

イコモスは、完全性及び真実性の条件を満たすものと考え、一方で、様々な構造物は、資産がその価値を十分に伝える能力に負の影響を与えていると考える。

提案されている評価基準

資産は評価基準の(ii)、(iv)、(vi)に基づいて推薦されている。

評価基準(ii): 建築、科学技術、記念碑、都市計画、景観設計の発展に重要な影響を与えたある期間にわたる価値観の交流またはある文化圏内での価値観の交流を表すものである。

この評価基準は締約国により、平泉の寺院、浄土庭園、考古学的遺跡群の集合体が現世における理想の仏国土(浄土)を空間的に表現しようとした顕著な事例である、との理由から、適用されている。これらの資産は仏教、とりわけ、6世紀に中国や朝鮮半島から日本に伝来した仏教が、日本土着の自然崇拜思想と融合しつつ、独特の日本の特質を有するに至った仏教の道を反映したものである。また、これらの資産は、中国や朝鮮半島の作庭意匠の理念が、水辺近くの聖なる場所と結びついて発展した日本土着の理念・様式・技術と融合したことを示すものでもある。こうした融合は平泉で行われた後、日本全土に広がっていった。したがって、推薦資産は、建築及び庭園の理念、意匠、技術に関して、東アジアにおける人類の重要な価値観の交流を示している。

イコモスは、寺院群と浄土庭園の配置は、仏教と共にアジアからもたらされた作庭の概念が、日本独特の自然崇拜である神道に基づきどのように進化を遂げ、結果的にそれが日本に独特の計画の概念及び庭園の意匠設計の概念へとどのように発展を遂げたのかを顕著に明示している。平泉の庭園と仏堂は、その他の都市の庭園・仏堂にも影響を与え、特に鎌倉には中尊寺を基づく仏堂の一つが存在した。

しかしながら、イコモスは、考古学的遺跡である柳之御所遺跡が、正当性についてどのように寄与しているのかが説明されていないと考える。

イコモスは、浄土庭園を伴う寺院群について言えば、この評価基準は適用されるものと考え、他方で、行政府である柳之御所遺跡には適用されないものと考え。

Criterion (iv): be an outstanding example of a type of building, architectural or technological ensemble or landscape which illustrates (a) significant stage(s) in human history;

This criterion is justified by the State Party on the grounds that 12th century Japan was a unique era in which it was believed, on the basis of Buddhist Pure Land thought, that it was possible to create a Buddhist Pure Land on this earth. Numerous artistic works of unified complexes of temples and gardens were constructed to achieve that goal. The complex of temples and gardens in Hiraizumi are a group of superb artistic works designed as symbolic manifestations of the Buddhist Pure Land on this earth. Along with their archaeological remains and associated artefacts, these serve as outstanding examples of architecture and garden design in 12th century Japan not seen elsewhere in the world, illustrating significant developments within these disciplines. Thus, the nominated property is an outstanding example of a type of architecture and garden design which illustrates a significant stage in human history in this field.

ICOMOS considers that the groups of Pure Land Gardens with their temples in Hiraizumi do reflect the idea of creating a pure land on earth but that this was also prevalent in Korea at around the same time. What is outstanding about the Pure Land Gardens in Japan is the way they demonstrate how Buddhist ideas were fused with local traditions and this cannot be considered as a significant period of human history.

ICOMOS considers that this criterion has not been justified.

Criterion (vi): be directly or tangibly associated with events or living traditions, with ideas, or with beliefs, with artistic and literary works of outstanding universal significance;

This criterion is justified by the State Party on the grounds that one of the most significant processes in constructing Hiraizumi was the unique development of Japanese Buddhism through its fusion with Japan's indigenous ethos of nature worship. This is especially true of the emergence of Japanese Buddhist Pure Land thought, centred on the worship of Amida's Pure Land of Utmost Bliss, and which arose in the context of the spread of the belief in the imminent arrival of mappô, "the latter period of the dharma," a degenerate age in which the Buddhist teachings themselves would be imperilled. These developments played a major role in shaping Japanese views of life and death in the 12th century. They were also directly reflected to the conceptual, stylistic, and formal properties of temples and gardens - seen nowhere else in the world - that gave spatial representation to Buddhist Pure Land, and have been reliably passed down to the present in some of the intangible aspects of the property such as religious rites and folk performing arts. Thus, the religious, philosophical, and other traditions tangibly

評価基準(iv): 歴史上の重要な段階を物語る建築物、その集合体、科学技術の集合体、あるいは景観を代表する顕著な見本である。

この評価基準は締約国により、12世紀の日本は浄土思想に基づき、仏国土（浄土）を現世に実現できると考えられたと信じられていた独特の時代であったこと、を理由として適用されている。この目標の達成のため、寺院と庭園とを一体化させた多数の芸術作品群が生み出された。平泉の寺院群と庭園群の複合体は、現世に仏国土（浄土）を象徴的に明示するものとして意匠された卓越した芸術作品である。それらの考古学的遺跡群及びその関連する工作物と併せ、これらの資産は、12世紀の日本における、世界で他に例を見ない顕著な建築と庭園意匠の事例を提供しており、これらの規範における重要な展開を示すものである。したがって、推薦資産は建築と庭園の意匠の類型において、人類の歴史における重要な段階を説明する顕著な事例である。

イコモスは、平泉の寺院に伴う一群の浄土庭園は現世に浄土を表現しようとする思想を強く反映したものであると考えるが、しかし、同時代の朝鮮（半島）においても普及していたのものであるとも考える。日本の浄土庭園が顕著である点は、仏教がどのように在地の伝統と融合していったのか、そのあり方を示している点にあるものであり、人類の歴史における重要な段階として考えられるものではないものとも考える。

イコモスはこの評価基準は証明されていないと考える。

評価基準(vi): 顕著な普遍的意義を有する出来事（行事）、生きた伝統、思想、信仰、芸術作品、あるいは文学的作品と直接または実質的関連がある（この評価基準は他の評価基準と併せて用いられることが望ましい）。

この評価基準は締約国により、平泉の建設における最も重要な過程のひとつは、日本の仏教が日本の土着の自然崇拝思想との融合により、独特の展開を遂げた点である、という理由から適用されている。

このことは、阿弥陀如来の西方極楽浄土の信仰を中心とした日本の浄土思想の出現についてとくに当てはまるものであり、その背景には、釈迦の入滅後、一定の時間が経過して仏法が衰えるとされる末法の到来が差し迫っているという信仰の広がりがあった。この展開は、12世紀における日本人の死生観の形成に大きな役割を果たした。これらはまた、世界でも他に例の見られない仏国土（浄土）を空間的に表現した寺院や庭園の理念や様式、形態に直接的に反映され、かつ、現在も宗教儀式や民俗芸能という資産の無形の要素の中に確実に受け継がれている。したがって、平泉の寺院や浄土庭園、考古学的遺跡群と実質的に関連する宗教的、哲学的、そしてその他の伝統は、顕著な普遍的意義を有していると言える。

associated with aspects of Hiraizumi's temples, Pure Land gardens and archaeological sites can be said to possess outstanding universal significance.

ICOMOS considers that the Pure Land Gardens clearly reflect a specific fusion of Buddhism with Japanese nature worship. However to justify this criterion the gardens need to be seen as a reflection of a belief of outstanding universal significance. They thus needs to be seen to be part of the diffusion of Buddhism over south-east Asia and thus reflections of a belief that is of wider importance than just in Japan – that of Buddhist Pure Land thought.

ICOMOS considers that this criterion has been justified.

ICOMOS considers that the serial approach is justified but the selection of sites should be reduced to exclude Yanaginogosho Iseki.

ICOMOS considers that the property meets criteria (ii) and (vi) and conditions of authenticity and integrity with the exclusion of Yanaginogosho Iseki and that Outstanding Universal Value has been demonstrated.

Description of the attributes

The attributes of outstanding universal value are the standing and archaeological remains of temples and pure land gardens, Mount Kinkeisan, the visual links between three of the gardens and Mount Kinkeisan and the setting of the pure land gardens that allows them to convey in an inspiring way their association with the profound ideals of Pure Land Buddhism.

4 Factors affecting the property

Development pressures

The main sites are within the urban area of Hiraizumi through which run main roads and railways.

The following proposed road projects are mentioned in the nomination dossier:

- A road improvement is planned for the prefectural road "Hiraizumi Teishajô-Chûsonji Line", which runs through Muryôkô-in Ato. No details are provided but it is stated that the project aims to conserve the nominated component part of the property.
- A project to improve the crossroads of National Route 4 and the Sakashita Line (town road) that run on the eastern edge of the Chûson-ji's temple compound. No details are provided but it is stated that due consideration will be given to the visual integrity of the entrance area of Chûson-ji.
- In the buffer zone there are plans for expanding the width of the "Town Road Yanaginogosho Line" (provisional name) and the "National Route 4

イコモスは、浄土庭園は仏教と日本の自然崇拜との特有な融合があったことを明確に反映しているものと考えます。しかしながら、この評価基準の適用のためには、庭園が、顕著で普遍的な意義を持つ信仰を反映したものであるとみなしうることが必要である。そのため、東南アジアにおける仏教の拡散の部分としてみなしうることが必要であり、それゆえ、単に日本のみならずより広い範囲で重要性をもつ信仰、すなわち、「浄土思想」を反映しているとみなしうることが求められる。

イコモスはこの評価基準は証明されていると考える。

イコモスはシリアルによる推薦には正当性があると考えますが、柳之御所遺跡を除外するために構成資産の選択を減らすべきものと考えます。

イコモスは、柳之御所遺跡を除外した場合、本資産は評価基準(ii)・(vi)及び真実性・完全性の条件を満し、顕著な普遍的価値が証明されると考える。

属性についての記述

顕著な普遍的価値の属性は、地上にあるか又は考古学的遺跡である寺院、浄土庭園、金鶏山、3つの庭園と金鶏山との視覚的関連、そして、それらに浄土思想の深遠な理念との関連を想起させる浄土庭園を取り巻く周辺の環境に存在するものである。

4 資産に影響を与える要因

開発圧力

主要な遺跡は平泉の市街地の中にあり、幹線道路及び鉄道が通過している。

以下の道路事業の提案が推薦書において言及されている。

- 無量光院跡を通過している県道「平泉停車場－中尊寺線」の道路改良が計画されている。詳細は提示されていないが、事業は推薦された構成資産の一部を整備する目的である。
- 中尊寺境内の東端に沿う国道4号線及び町道坂下線の交差点改良事業がある。詳細は提示されていないが、中尊寺導入部の視覚的完全性を十分に考慮することとしている。
- 緩衝地帯において町道柳之御所線（仮称）及び一般国道4号平泉バイパスの拡幅、東北自動車道と既存道路を結ぶ道路の建設、主要地方道花巻－衣川線の一部及び町道中学校線の一部の新設が計画されている。

Hiraizumi Bypass", installing a connection road between the Tōhoku Expressway and the existing roads, and newly constructing a part of a main local road, the Hanamaki - Koromogawa Line, and a part of a town road, the Chūgakkō Line.

Overall it is stated that the design of these construction will harmonize the design and structure of these roads with the surrounding landscape.

Other aspects of development relate to smaller scale intrusions such as poles and pylons that impact on visual links between some of the properties and to houses near the temple complexes. It is understood that there are two houses planned for relocation within the Kanjizaiō-in Ato site, and that some residential houses, wire poles and an iron tower occupying the site within the Muryōko-in and Yanaginogosho Iseki sites will be removed. According to the provisions of the Management Plan, the buildings/structures that negatively influence property value will be relocated.

ICOMOS considers that there is a need to ensure that the visual links between the separate sites are respected and particularly the links between the gardens and Mount Kinkeisan.

Large commercial advertising boards impact adversely on the setting of the sites. Although there is also commitment to move these, there is no agreed timetable.

Tourism pressures

Visitors within the sites are subject to varying degrees of management but there is no overall management strategy that includes local authorities in the buffer zone. Hiraizumi city currently receives around one million visitors a year and an increase in visitors could impact adversely on the property unless stronger measures are put in place. ICOMOS considers that there is a need for research to identify the carrying capacity of the various sites and for a visitor management strategy to be developed and adopted to ensure capacities are respected.

Environmental pressures

There are no immediate environmental threats such as acid rain but there is a need to ensure that traffic that might impact on the property in terms of emissions or noise is minimised.

Natural disasters

Natural disasters that could impact on the nominated property include typhoons, heavy rain, earthquakes, floods and fires. As a fire prevention measure for buildings, automatic fire alarm systems, drenchers, fire extinguishers and water jets are installed and voluntary fire-fighting organizations are organized. For other threats, prompt response arrangements have been put in place.

全体として、これらの工事に伴う設計は、これらの道路の設計と構造が周囲の景観と調和されるようにすると述べられている。

他の開発の様相は、幾つかの資産間の視覚的関連に影響を与えるより小さな障害である電柱や鉄塔、及び寺院群に近接する住居群に関係する。観自在王院跡の中にある2軒の住宅の移設計画が存在し、無量光院跡及び柳之御所遺跡内には、いくつかの住宅、電線及び鉄塔が占有するが、いずれも移設されるものと理解される。将来的な管理計画によれば、資産の価値に負の影響を与える建築物（構造物）については移設されることとなっている。

イコモスは分離している遺跡群、とりわけ庭園と金鶏山との間の視覚的関連が尊重されることを確実にする必要があると考える。

大規模広告看板は、遺跡の周辺環境に負の影響を与える。これらが移動することの約束はあるが、その時期については未定である。

観光圧力

遺跡内の来訪者は様々な程度の管理上の制約を受けるが、緩衝地帯における地方官庁を含めて全体的な管理戦略が存在しない。平泉は現在、年間約100万人の来訪者があり、これが増加することは、よほど強い方法を取らない限り、資産に負の影響を与える。イコモスは、さまざま場所の受容力を定義するための調査を行い、受容力に応じた受入れのための来訪者管理戦略が策定され適用されることが必要であると考ええる。

環境への圧力

酸性雨のような差し迫った環境脅威は存在しないが、交通が資産に与える排気ガスあるいは騒音の影響については、その低減を確実にすることが必要である。

自然災害

資産に影響を与える自然災害としては、台風、大雨、地震、洪水及び火災がありうる。建造物の防火対策としては、自動火災報知設備、ドレンチャー、消火栓及び放水銃があり、自主防火組織が整備されている。その他の脅威に対しては迅速な対応の準備が整えられている。

<p>Impact of climate change</p> <p>Climate change could make the area more prone to floods. River banks are being strengthened as a flood protection measure.</p>	<p>気候変動の影響</p> <p>気候変動により洪水被害がもたらされる可能性がある。洪水を防ぐ手段として堤防の強化が行われている。</p>
<p>ICOMOS considers that the main threats to the property are from urban development and particularly infrastructural development; current planned road projects will have an impact on the property and there will be a need to ensure that all projects are undertaken only after a satisfactory heritage impact assessment has been undertaken to consider the potential impact on the attributes of the Outstanding Universal Value, including the visual links between properties and Mount Kinkeisan and the setting of the sites.</p>	<p>イコモスは、資産への主要な脅威は都市開発、とりわけ社会基盤の開発であると考え。現在計画されている道路事業は資産に影響を与えるだろう、そして、すべての事業は、資産と金鷄山との視覚的結びつき及び周辺環境を含めて顕著な普遍的価値の属性への潜在的な影響について考慮するために、遺産への影響評価を十分に実施した後に着手されることを確実にする必要がある。</p>
<p>5 Protection, conservation and management</p> <p>Boundaries of the nominated property and buffer zone</p> <p>Given that part of the justification of Outstanding Universal Value that is suggested for the property relates to the link between the temple complexes and their Pure Land Gardens and Mount Kinkeisan, ICOMOS considers that it would have been logical for the boundaries of the nominated property to have incorporated the spatial links between the temples and the mountain. What have been nominated are the individual sites and not the links with the mountain.</p> <p>The large buffer zone encloses the six component sites. The whole property lies in the valley of the Kitagamikawa River, flanked by mountains on the west and east sides and the boundaries of the buffer zone follow the ridge lines on the west and east sides. The northern boundary is about 5km away from the sites, while the southern boundary is some 3km away from the property area. The buffer zone covers the visual setting of the property and it is thus crucial that controls are in place within the buffer zone to protect the visual integrity of the property in terms of the visual links between the temples, gardens and Mount Kinkeisan and the setting of individual sites.</p> <p>Within the Hiraizumi Town Landscape Plan, the buffer zone comprises three types: Historic Landscape Area, Vernacular Landscape Area and Ordinary Landscape Area, within which building heights are restricted to 10m, 13m and 15m respectively. ICOMOS considers that there is a need to ensure that the height control is related to the strong visual links between the individual sites.</p> <p>If Yanaginogosho Iseki is excluded from the property, its site should be included in the buffer zone.</p>	<p>5 保護・保存及び管理</p> <p>推薦資産及び緩衝地帯の境界</p> <p>推薦資産の顕著な普遍的価値の証明の部分が、寺院群とそれらの浄土庭園及び金鷄山との関連に関係することから、イコモスは、寺院と山（金鷄山）との空間的結びつきを推薦資産の境界域に含めることが論理的であつただろうと考える。推薦されたものは個別の遺跡であり山（金鷄山）との結びつきではない。</p> <p>広大な緩衝地帯が6つの構成資産を取り囲んでいる。資産全体は、東西を山に挟まれた北上川流域の中に位置し、緩衝地帯の境界は、東西の山並みの稜線に沿っている。北側の境界は遺跡から約5km離れており、南側の境界は資産範囲から3kmほど離れている。緩衝地帯は資産の視覚的背景を覆っており、従って、寺院・庭園と金鷄山との視覚的関連と個々の遺跡の周辺環境に関して、緩衝地帯内における視覚的完全性を保護するための適切な統制が非常に重要である。</p> <p>平泉町景観計画の中では、緩衝地帯は歴史景観地区、風土景観地区及び一般景観地区の3つの種類により構成され、これらの地域内では建築物の高さは各々10m、13m、15mに制限される。イコモスは、個々の遺跡間における強い視覚的関連に関して、高さ制限を確実にすることが必要であると考え。</p> <p>もし柳之御所遺跡が資産から除外されるのであれば、その遺跡は緩衝地帯に含まれるべきである。</p>

ICOMOS considers that the boundaries of the individual sites are adequate and the buffer zone provides protection for the whole visual setting, but it is essential that this protection is enforced in relation to the visual links between sites within the property.

Ownership

The nominated sites are owned variously by national and local governments, religious organizations and private owners.

Protection

Legal Protection

The nominated sites and the buffer zone are well protected through a range of designations - Historic Sites, Special Historic Sites, Places of Scenic Beauty or Special Places of Scenic Beauty. These are protected under 1950 Law for the Protection of Cultural Properties in which is embedded earlier laws such as the Ancient Shrines and Temples Preservation Law (1929), the Law for the Preservation of Historic Sites, Places of Scenic Beauty and Natural Monuments (1919) and the National Treasures Preservation Law (1929). Since first nomination further protection has been afforded to three of the sites: Mount Kinkeisan, Muryôko-in and Yanaginogosho Iseki.

Broadly the temples and standing buildings are protected as monuments, the restored gardens and archaeological sites as sites.

The buffer zone is protected through a range of landscape designations which protect the values of the area and restrict development. What are not protected are houses within the nominated area such as those for the 134 people living in Chûson-ji and smaller numbers elsewhere.

Traditional Protection

The routine management and conservation of Chûson-ji Temple and Môtsû-ji Temple are the responsibility of the religious organizations, with the assistance of Hiraizumi Town. Religious rites, folk performing arts and other intangible heritage representing Japan's Pure Land Buddhist thought - are also inherited and protected by traditional religious organizations.

Effectiveness of protection measures

The property is under the highest-level legal protection.

According to relevant provisions, the protective measures implemented within the property area can guarantee that the value of the nominated property will not be subject to the negative influences from development.

The construction control measures in the buffer zone of the property have achieved a relatively good effect. In line with the Landscape Plan, large advertisement

イコモスは、個々の遺跡の境界はほぼ適切であり、緩衝地帯は全体の視覚的背景の保護に寄与している。しかし、構成資産間の視覚的関連において、この保護がさらに強化されることは必須であると考えます。

所有関係

推薦資産は、国、地方自治体、宗教法人、個人所有者など多岐にわたり所有されている。

保護

法的保護

推薦資産及び緩衝地帯は史跡、特別史跡、名勝、特別名勝指定地の範囲として良好に保護されている。これらは、古社寺保存法、史蹟名勝天然記念物保存法（1919年）、国宝保存法（1929年）などの前身法が組み込まれた1950年の文化財保護法の下で保護されている。最初の推薦以来、金鶏山、無量光院跡、柳之御所遺跡の3つについては更なる保護（追加指定）が図られている。

概ね、寺院及び建築物は記念物として、また庭園及び考古学的遺跡は遺跡として保護されている。

緩衝地帯は、その範囲の価値を保護し開発を制限する景観地区として指定され保護されている。推薦資産内における中尊寺内の134人が居住する住居及びその他地域におけるそれ以下の居住者数の住居は保護されていない。

伝統による保護

中尊寺及び毛越寺の日常保存管理は、宗教法人の責任において平泉町の援助の下に行われている。日本の浄土思想を表現する宗教儀式、民俗芸能及びその他の無形の遺産もまた、伝統による宗教組織によって保護され受け継がれている。

保護の方法の実効性

資産は最高水準の法的保護の下にある。

関連条項によれば、資産内において講じられる保護措置により、推薦資産の価値は、開発からの負の影響を受けることのないように保証されている。

緩衝地帯における建築制限の方法は、比較的良好な効果を達成している。景観計画にしたがって、景観に影響する大きな広告看板が3年以内に適正化される。

boards affecting the landscape will be adjusted within three years. Currently negotiations with the owners of these advertisement boards are ongoing.

The construction licensing in the buffer zone is supervised by the government, so it is said that the management mechanism can guarantee that the value of the nominated property will not suffer negative influences from development.

The current laws and traditional protective measures are all compulsory.

ICOMOS considers that the legal protection in place is adequate to protect fabric. There are difficulties in protecting views and setting arising from the nature of the dispersed sites in a city and it will be crucial to ensure that the sites have the ability to demonstrate their relationship with the landscape in a meaningful way though allowing them to be oases of contemplation.

Conservation

Inventories, recording, research

The nominated areas are all extraordinarily well researched. The main temple and garden areas have been researched and excavated over the past 70 years, in total 198 excavations have been undertaken.

Present state of conservation

The revised nomination dossier presents in detail the conservation history of the standing structures and precisely what interventions have been made. This has included total dismantlement and rebuilding for some structures. All work has been meticulously documented and carried out by skilled craftsmen.

The evidence provided of the approach taken for reconstruction of the two Pure Land gardens and the way their forms have been created demonstrates that this work has been carried out with exceptional thoroughness.

ICOMOS considers that the state of conservation of all the temples and archaeological sites is good.

Active Conservation measures

The main temples, gardens and archaeological sites are all conserved or protected by either national or regional authorities and are all under good active management.

There are proposals to re-instate and restore the other two buried gardens. According to the Management Plan, the conservation and restoration of the Ôkegaran Ato pond will start in 2012, and that of Muryôko-in Ato pond will start in 2013 and complete in 2016. No details of these projects have been provided. However the

現在、所有者とこれらの看板についての交渉が行われている。

緩衝地帯における建築許可については、行政によって管理されている。その管理体制により、資産の価値に負の影響が及ばないことが保証されているとしている。

現在の法及び伝統的保護の方法についてはすべて強制力を伴うものである。

イコモスは、現地における法的保護は構造物の保護のためには適正であると考えます。しかし、都市の中で遺跡が散り散りになっているために生じている眺望やその周辺景観については、保護する困難さがある。そのため、たとえ構成資産が観想のオアシスとなるとしても、（構成資産と）景観との関係性を意味のあるものとして明示する能力を持つことを確実にすることが重要である。

保存整備

目録、記録、調査

推薦地域は全て驚くほどに調査されている。主要な寺院及び庭園地域は、過去70年以上にわたり合計198回の発掘調査が行われている。

保存整備の現状

改定推薦書においては、現存建造物の保護の詳細について、その歴史とどのような手立てが講じられたかについて詳細に示されている。これには幾つかの建造物についての解体修理と再建も含んでいる。全ての作業は綿密に記録され、熟練職人によって実施された。

2つの浄土庭園の修復についての研究と形状の復元方法について与えられた証拠は、この作業が並外れた完璧さをもって実施されたことを示している。

イコモスは、全ての寺院及び考古学的遺跡の保存整備状態は良好であると考えます。

現在行われている保存整備手法

主要な寺院、庭園及び考古学的遺跡は、国あるいは地方機関によって保存整備及び保護がなされており、すべて良好な管理状況下にある。

2つの埋蔵されている庭園についての整備・修復計画の提案が存在する。保存管理計画によれば、大池伽藍跡の整備と修復は2012年に始まり、無量光院跡の池は2013年に始まり2016年に完了する予定である。これらの事業の詳細については提示されていない。しかしながら、推薦書には、復元寺院を含む1つの庭園についての図像が含まれている。

nomination dossier includes an image for one of the gardens that includes a reconstructed temple.

ICOMOS considers that any proposal for further re-excavating and re-instating will need to be set out in the form of a reconstruction strategy, the evidence on which the proposals are based, and the reconstruction philosophy, and be submitted to the World Heritage Centre for evaluation by ICOMOS, and consideration by the World Heritage Committee, in line with paragraph 172 of *Operational Guidelines*.

ICOMOS also stresses the need to ensure that all buried archaeological resources are actively protected to ensure the protection of mineral and plant evidence.

ICOMOS considers that conservation is adequate, but that any further reconstruction proposals must be submitted to the World Heritage Centre for evaluation by ICOMOS, and consideration by the World Heritage Committee, in line with paragraph 172 of *Operational Guidelines*.

Management

Management structures and processes, including traditional management processes

Iwate Prefecture and the relevant municipal government have set up the Iwate Prefecture World Heritage Preservation and Utilization Promotion Council to facilitate communication and coordination with regard to the projects that are planned by the national government, Iwate Prefecture, relevant municipal governments, private companies, etc. within the nominated property or its vicinity. This provides the overall management framework for the property.

An advisory committee, the Instructing Committee for Research and Conservation of the Group of Archaeological Sites of Hiraizumi, has also been set up to allow university researchers and members of the ICOMOS National Committee of Japan to provide advice to the Council. It consists of researchers and experts from domestic universities and members of ICOMOS, and provides academic advice to the Promotion Council.

There are also specific prefectural, city and towns council committees which provide advice on the protection of cultural properties to their respective councils.

Policy framework: management plans and arrangements, including visitor management and presentation

In 2006, Iwate Prefecture prepared a comprehensive preservation and management plan for the nominated property's components designated as National Treasures, Important Cultural Properties, Historic Sites, Special Historic Sites, Places of Scenic Beauty or

イコモスは、将来的な再発掘調査及び再復元のための計画案については、修復のための戦略、その計画案に基づいている証拠、修復哲学が必要であり、「作業指針」第 172 項に基づいて、イコモスによる評価及び世界遺産委員会における判断のため、世界遺産センターに提出することが必要であると考えます。

イコモスは、また、全ての埋蔵された考古学的資源が、鉱物及び植物証拠の保護を確実にするため、積極的に保護されることを確実にする必要性を強調する。

イコモスは保存整備については適正と考えるが、将来的な修復の提案については、「作業指針」第 172 項にあるように、イコモスによる評価及び世界遺産委員会における判断のため世界遺産センターに提出されなければならないと考える。

管理

伝統による管理手順を含めた管理構造及び手順

岩手県及び関係市町は、国、県、関係市町、民間団体等が資産およびその周辺において計画される事業等について連携・調整を図るため「岩手県世界遺産保存活用推進協議会」を立ち上げている。これが資産全体の管理の枠組みとなっている。

大学研究者及び日本イコモス国内委員が協議会に対して助言するための「平泉遺跡群調査整備指導委員会」が設置されている。これは国内の大学及びイコモス会員の研究者及び専門家により構成され、推進協議会に対し学術的な観点からの助言を行っている。

県、市、町の特別な委員会もまた存在し、それぞれの委員会に対し文化財保護の観点から助言を行っている。

基本的枠組み：来訪者管理及び紹介解説を含む管理計画と対応

2006 年に岩手県は、国宝、重要文化財、史跡、特別史跡、名勝、又は特別名勝として指定される推薦資産の構成要素についての包括的保存管理計画を、文化庁、史跡等の管理団体である関係市町及び所有者との調整のもとに策定した。

Special Places of Scenic Beauty in coordination with the Agency for Cultural Affairs, owners and municipal governments that are custodial bodies of Historic Sites, etc.

The Comprehensive Preservation and Management Plan for Hiraizumi Temples, Gardens and Archaeological Sites Representing the Buddhist Pure Land was completed and implemented in January 2007, and revised in January 2010. The monitoring indicators have been improved, thus making the plan more operable, as requested by point 3 of Decision 32 COM 8B.24.

It is acknowledged that although some visitor facilities and information boards are in place, the presentation of the site to visitor could be improved and will be addressed.

Risk preparedness

The key threats are fire, storms, floods and earthquakes. As a for fire prevention, automatic fire detection and sprinkler systems have been installed in the buildings and voluntary fire-fighters have been organized. Drainage systems and lightning conductors have been installed and forest conservation measures aim to minimize landslides that may result from heavy rain of earthquakes.

Involvement of the local communities

Local communities and many local groups have been fully involved in the preparation of the nomination.

The local government has signed an agreement with the local institutions in the site where the property is located, and invited the local community to patrol the nominated property regularly and irregularly and come up with opinions and suggestions regarding the protection, management and presentation of the property. Schools and local organizations in the property voluntarily participate in routine maintenance.

Resources, including staffing levels, expertise and training

For all designated monuments the government contributes 50-80% of the cost of repair except for minor repairs or special cases. Excavation work carried out by regional authorities is also subsidised up to 50%. Likewise research, repair or 'visual harmonisation' work on cultural landscapes is supported by national funding up to 50%. On top of national subsidies, Iwate Prefecture further subsidises up to 50% of the remaining cost. The Prefecture has also established a fund for the protection of historic sites which collects support from local businesses in Iwate Prefecture.

The Iwate Prefectural Board of Education has created an organisation in charge of Cultural Properties and World Heritage, employing 11 officers. Hiraizumi

平泉一仏国土（浄土）を表す建築・庭園及び考古学的遺跡群の包括的保存管理計画は、2007年1月に策定・実行され、そして2010年1月に改定された。監視指標については改善されており、したがって、決議32 COM 8B.24の指摘3による要求どおりに、より実効性のある計画となっている。

来訪者用施設及び情報板はいくつか設置されているが、来訪者のための遺跡の解説方法は改善の余地があり、対処されることとなっている。

危機管理

基本的な脅威は火事、台風、洪水及び地震である。防火対策として、火災検知器及びスプリンクラーが建物内に導入されており、自主消防団が組織されている。排水設備及び避雷設備が導入されており、森林保全は大雨や地震の影響を最小限の区域に限定することを目標としている。

地域住民とのかかわり

地域住民及び多くの地域団体は推薦の準備段階から深く関わっている。

地方行政機関は、資産の所在する場所で地域の団体と協定し、地域住民に対し定期的あるいは不定期に推薦資産のパトロールを要請し、資産の保護、管理、解説に関する指示や意見を提出させている。学校や資産内の地域組織は、自発的に日常的な維持管理に関与している。

職員の資質向上を含む専門的知識及び研修

全ての指定記念物について、政府は小規模修理や特別な場合を除いて50-80%の補助金を交付している。地方機関によって実施される発掘調査もまた50%を上限に補助される。調査と同様に、文化的景観における修理や「視覚的調和」事業についても50%までの国庫補助がある。国庫補助に加え、岩手県が更に残りの費用の50%以内の額を補助している。また、岩手県においては、県内の事業者から集めて、史跡保護のための基金を設立している。

Town's Board of Education has created the World Heritage Promotion Section, in which 4 dedicated officers are working for the preservation and management of component parts; in addition, 5 officers are stationed at the Hiraizumi Cultural Heritage Centre to conduct on-site archaeological excavation. These organisations and systems are to be strengthened further in the future.

ICOMOS considers that the management arrangements are adequate.

6 Monitoring

Four main indicators have been identified for visual integrity, collaborations between component sites protection of buildings, gardens and archaeological sites, and the protection of the buffer zone, as requested by point 3 of Decision 32 COM 8B.24. Responsibilities for their implementation are clearly set out.

ICOMOS considers that indicators in place and arrangements for their monitoring are adequate.

7 Conclusions

The revised nomination which considers the relationship between Pure Land Buddhism, the four temple complexes of Hiraizumi, of which many details have been recovered from excavations, and the sacred Mount Kinkeisan, now makes a strong case for why this ensemble can be seen as an exemplar of the ways the ideals of Pure Land Buddhism were made manifest. The ensemble demonstrates a fusion between the Pure Land Buddhism that was transmitted from Korea and Japanese nature worship and traditions of garden design. And the only surviving temple, Chūson-ji with its highly flamboyant gold decoration, makes a strong statement about the wealth of the Ōshū Fujiwara clan, their espousal of Pure Land Buddhism and the way this was linked with political power in the short lived city of Hiraizumi.

The one element of the nomination that does not contribute to this theme is *Yanaginogosho Iseki*, the site of government offices. This site does not have any attributes that contribute to an understanding of Pure Land Buddhism or its development and adoption in Hiraizumi. ICOMOS considers that this site should not be part of the serial nomination.

The remains of the four temple complexes and Mount Kinkeisan are intertwined with the modern city of Hiraizumi and particularly with the road and rail network.

岩手県教育委員会は文化財と世界遺産の担当組織を設け、11名の職員を従事させている。平泉町教育委員会は世界遺産推進室を設置し、4名の専任職員が構成資産の保存管理にあたっている。加えて、平泉文化遺産センターには5名の職員が配置され、遺跡の考古学的発掘調査を実施している。これらの組織体制は今後さらに充実することとしている。

イコモスは管理体制については適切であると考えている。

6 経過観察

視覚的完全性、構成資産間の連携、建築・庭園及び考古学的遺跡群の保護、及び緩衝地帯の保護のため、4つの主要な指標が設定されている。これは決議 32 COM 8B.24. の指摘 3 による要請に応えたものである。これらの実施に対する責任体制は明確に提示されている。

イコモスは設定された指標と経過観察のための方法については適正であると考えている。

7 結論

浄土思想と、発掘調査によって多くの詳細が明らかになった平泉の4つの寺院群及び聖なる山である金鶏山との関係を考慮した改定推薦書は、なぜこの総体が、浄土思想の理想の手段の一典型として見なしうる十分な事例であるかについて明白に示している。その総体は、韓国（朝鮮）から伝播した仏国土（浄土）と日本の自然崇拝と庭園意匠の伝統との融合を示している。そして、唯一の現存寺院（建造物）である非常に華美な黄金装飾が施された中尊寺は、奥州藤原氏の財力と、彼らの仏国土（浄土）への信奉と、これが短命の都市であった平泉の政治権力と結びついたかについての強い言明を形成している。

この命題に寄与しない推薦書中の一つの構成資産は、政庁の遺跡である柳之御所遺跡である。この遺跡は、平泉における仏国土（浄土）の理解、又は、その発展と導入への貢献についての属性を有していない。イコモスは、この遺跡がシリアルノミネーションのひとつであるべきではないと考える。

4つの寺院群の遺跡と金鶏山は、現代的都市である平泉に取り込まれ、特にも道路と鉄道網が交錯している。

Given that these ensembles aimed to manifest an ideal world and one that invites contemplation, it is essential that the sites are kept as far as possible as oases within the city, sheltered from noise and diversion. Currently there is visual intrusion from wires, pylons and houses and potential threats from road development. ICOMOS considers that every effort should be made to ensure that the visual links between the properties and Mount Kinkeisan are unobstructed, that the surroundings of the complexes are restored and that any road development is subjected to a Heritage Impact Assessment that considers impact on the attributes of Outstanding Universal Value and on the authenticity of the property that includes its ability to convey the ideals of Pure Land Buddhism.

There are proposals to restore Chûson-ji and Muryôkô-in Ato, the two Pure Land Gardens currently buried. ICOMOS considers that justification for any such proposals, including all the evidence on which they are based, would be need to be submitted to the World Heritage Centre for evaluation by ICOMOS and consideration by the World Heritage Committee in line with paragraph 172 of the *Operational Guidelines*.

Recommendations with respect to inscription

ICOMOS recommends that Hiraizumi – Temples, Gardens and Archaeological Sites Representing the Buddhist Pure Land, Japan, with the exception of Yanaginogosho Iseki, be inscribed on the World Heritage List on the basis of *criteria (ii) and (vi)*.

Recommended Statement of Outstanding Universal Value

Brief synthesis

The four Pure Land gardens of Hiraizumi, three focused on the sacred mountain Mount Kinkeisan, exemplify a fusion between the ideals of Pure Land Buddhism and indigenous Japanese concepts relating to the relationship between gardens, water and the surrounding landscape.

Two gardens are reconstructed, with many details recovered from excavations, and two remain buried.

The short-lived city of Hiraizumi was the political and administrative centre of the northern realm of Japan in the 11th and 12th century and rivalled Kyoto, politically and commercially.

The four gardens were built by the Ôshû Fujiwara family, the northern branch of the ruling clan, as symbolic manifestations of the Buddhist Pure Land on this earth, a vision of paradise translated into reality through the careful disposition of temples in relation to ponds, trees and the peaks of Mount Kinkeisan. The heavily gilded temple of Chûson-ji – the only one remaining from the 12th century –, reflects the great wealth of the ruling clan.

これらの総体が理想世界の実現をめざしたもので、それらが観想を招来するとした場合に、それらの場所が可能な限り都市内のオアシスとして保たれるよう、騒音と迂回路から守られることが重要である。現在は、電線・鉄塔・家屋群という視覚的障害、また、道路開発からの潜在的脅威が存在する。イコモスは、資産群と金鶏山の間の視覚的関連が妨げられないようにすること、資産群の周辺域が修復されること、そしてすべての道路計画は、顕著な普遍的価値の属性と仏国土（浄土）の理念を伝達するための能力を含む資産の真実性についての（負の）影響を考慮する遺産影響評価に従うこと、が徹底されるべきである、と考える。

中尊寺と無量光院跡の、現在埋もれているふたつの浄土庭園を修復するための提案がなされている。イコモスは、それらの提案についての妥当性は、それらが基づいているすべての証拠を含めて、イコモスによる評価及び作業指針の第 172 項に従って世界遺産委員会によって判断されるために、世界遺産センターに提出される必要がある、と考える。

記載に関する勧告

イコモスは、日本が推薦した「平泉－仏国土（浄土）を表す建築・庭園及び考古学的遺跡群－」について、柳之御所遺跡を除いて、評価基準（ii）と（vi）に基づいて世界遺産一覧表に記載されるべきことを勧告する。

勧告された顕著な普遍的価値の言明

総合的所見

平泉の 4 つの浄土庭園は、そのうちの 3 つが神聖な山である「金鶏山」に焦点を合わせており、浄土思想の理想と、庭園・水・周辺景観の結びつきに関する日本古来の概念との融合を例証している。浄土庭園のうちの 2 つは、発掘調査により発見された多くの詳細事項に基づき復元されたものであり、他の 2 つは地下に埋蔵されたまま残されている。短命であった平泉の都市は、11 世紀～12 世紀の日本列島北部領域における政治・行政上の拠点成し、政治的・経済的に京都と拮抗していた。4 つの庭園は、当時の支配氏族の北部地域における分家であった奥州藤原氏により、現世における仏国土（浄土）の象徴的な表現、つまり池泉・樹林・金鶏山頂と関連して仏堂を周到に配置することにより実体化した理想郷の光景として造営された。重厚に金箔を貼った中尊寺の仏堂は、12 世紀から残る唯一のものであり、支配氏族の巨大な富を反映している。

Much of the area was destroyed in 1189 when the city lost its political and administrative status. Such was the spectacular rise and conspicuous wealth of Hiraizumi and its equally rapid and dramatic fall, that it became the source of inspiration for many poets. In 1689, Matsuo Basho, the Haiku poet, wrote: 'Three generations of glory vanished in the space of a dream...'

The four temple complexes of this once great centre with their Pure Land gardens, a notable surviving 12th century temple, and their relationship with the sacred Mount Kinkeisan are an exceptional group that reflect the wealth and power of Hiraizumi, and a unique concept of planning and garden design that influenced gardens and temples in other cities in Japan.

Criterion (ii): The temples and Pure Land gardens of Hiraizumi demonstrate in a remarkable way how the concepts of garden construction introduced from Asia along with Buddhism evolved on the basis of Japan's ancient nature worship, Shintoism, and eventually developed into a concept of planning and garden design that was unique to Japan. The gardens and temples of Hiraizumi influenced those in other cities, notably Kamakura where one of the temples was based on Chûson-ji.

Criterion (vi): The Pure Land Gardens of Hiraizumi clearly reflect the diffusion of Buddhism over south-east Asia and the specific and unique fusion of Buddhism with Japan's indigenous ethos of nature worship and ideas of Amida's Pure Land of Utmost Bliss. The remains of the complex of temples and gardens in Hiraizumi are symbolic manifestations of the Buddhist Pure Land on this earth.

Integrity

The property encompasses the remains of the temple complexes with their Pure Land Gardens and the sacred mountain of Mount Kinkeisan to which they are visually aligned.

Although the sites of Chûson-ji, Môtsû-ji, Kanjizaiô-in Ato and Mt Kinkeisan conserve their visual links in a complete manner, at the Muryôko-in site, houses and other structures have a negative influence.

The visual links between the temples and Mount Kinkeisan span areas outside the nominated property in the buffer zone. To protect the spatial landscape relating to Pure Land cosmology, the spatial integrity of these links need to be sustained.

Authenticity

There is no doubt of the authenticity of the excavated remains. Two of the gardens have been reconstructed and this work has been underpinned by rigorous analysis of the built and botanical evidence.

平泉の大半は、政治・行政上の地位を失った 1189 年に滅んだ。それは、平泉のめざましい繁栄と顕著な富を表すと同時に、その急速で劇的な没落を示すものでもあり、多くの詩歌を喚起する素材となった。1689 年に俳人の松尾芭蕉は、「三代の栄耀一睡のうちにして…」と詠った。このかつての巨大な（政治・行政上の）拠点に存在し、浄土庭園を伴うかつての巨大な中心にある 4 つの寺院群、12 世紀から残存する顕著な仏堂、及びそれらと神聖なる金鶏山との関係は、平泉の財力と権力を反映する類い希なる集合であり、日本の他の都市の仏堂や庭園にも影響を与えた計画・庭園の意匠設計に関する概念を表している。

評価基準(ii)

平泉の寺院と浄土庭園は、仏教とともにアジアからもたらされた作庭の概念が、日本独特の自然信仰である神道に基づきどのように進化を遂げ、結果的にそれが日本に独特の計画の概念及び庭園の意匠設計の概念へとどのように発展を遂げたのかを顕著に明示している。平泉の庭園と仏堂は、その他の都市の庭園・仏堂にも影響を与え、特に鎌倉には中尊寺に基づく仏堂のひとつが存在した。

評価基準(vi)

平泉の浄土庭園は、東南アジアを超えた仏教の普及、日本に固有の自然信仰の精神と阿弥陀如来の極楽浄土思想との明確で独特の融合を疑いなく反映している。平泉の仏堂と庭園の複合体から成る遺跡群は、現世における仏国土（浄土）を象徴的な顕現である。

完全性

資産は、浄土庭園を伴う仏堂の複合体、及びそれらと視覚的な結び付きを持つ聖なる山（金鶏山）を包含している。中尊寺・毛越寺・観自在王院跡・金鶏山は視覚的な結合を完全に保持しているものの、無量光院跡では家屋群及びその他の構造物が負の影響を持つ。仏堂と金鶏山との間の視覚的な結合は、緩衝地帯に当たる推薦資産の外側の区域にまで及んでいる。仏国土（浄土）の宇宙（コスモロジー）に関する空間的な見え方を保護するためには、これらの結合の空間的な完全性を保持することが必要である。

真実性

発掘された遺跡の真実性については、揺るぎがない。庭園群のうち 2 つは復元されたものであり、復元作業は建築及び植物に関する物証の厳密な分析により実証されている。

For the surviving structures, the main building Chûson-ji Konjikidô is a remarkable survival and has been conserved with great skill in a way that ensures its authenticity of materials and construction. The authenticity of the temple in its landscape has to a certain extent been compromised by the concrete sheath building that now surrounds it.

To sustain the ability of the property to convey its value, it is essential that the four temples are able to convey in an inspiring way their association with the profound ideals of Pure Land Buddhism.

Management and protection requirements

The property and its buffer zone are well protected through a range of designations - Historic Sites, Special Historic Sites, Places of Scenic Beauty or Special Places of Scenic Beauty.

Protecting views between sites and protecting their setting will be crucial to ensure that the sites have the ability to demonstrate their relationship with the landscape in a meaningful way though allowing them to be oases of contemplation.

Iwate Prefecture and the relevant municipal government have set up the Iwate Prefecture World Heritage Preservation and Utilization Promotion Council to provide the overall management framework for the property. This Council receives expert advice from the Instructing Committee for Research and Conservation of the Group of Archaeological Sites of Hiraizumi.

The Comprehensive Preservation and Management Plan was completed and implemented in January 2007, and revised in January 2010. Any projects to implement proposals in the plan to re-instate and restore the other two buried gardens will need to be submitted to the World Heritage Centre for evaluation by ICOMOS, and consideration by the World Heritage Committee, in line with paragraph 172 of *Operational Guidelines*.

The local government has signed an agreement with the local institutions and invited the local community to patrol the property and offer suggestions on protection, management and presentation.

ICOMOS further recommends that the State Party give consideration to the following:

- Change the name of the property to "Hiraizumi – Temples and Gardens Representing the Buddhist Pure Land";
- Keep unobstructed the visual links between Mount Kinkeisan and the four ensembles;

現存する建造物のうち、主たる建築である中尊寺金色堂は顕著な遺存物であり、材料・構造の真実性を保証する卓越した技術により保全されてきた。しかしながら、風景上の仏堂の真実性は、現在、周囲を囲うコンクリート造の覆屋によって、一定程度損なわれている。

価値を伝える資産の能力を維持するためには、4つの仏堂が浄土思想の深遠なる理想との関連性を認識できるように維持されることが不可欠である。

管理及び必要な保護措置

資産とその緩衝地帯は、史跡・特別史跡・名勝・特別名勝に指定されており、良好に保護されている。

構成資産間の展望の保護及び構成資産の周辺環境の保護は、各構成資産が観想のオアシスであるとしても、景観との関係を意味深く明示できる構成資産の能力を保証する上で極めて重要であろう。

岩手県及び関係地方公共団体は、資産の包括的な管理体制を整備するために、岩手県世界遺産保存活用推進会議を設置した。この会議は、平泉の考古学的遺産群の調査・保存のための指導委員会の専門家による助言を受ける。

包括的保存管理計画は、2007年1月に完成・実施されており、2010年1月に改訂された。本計画に示された地下に埋蔵されている2つの庭園の再生・修復に当たっては、『世界遺産条約履行のための作業指針』第172項に基づき、イコモスの評価及び世界遺産委員会の判断のために、世界遺産センターに実施・企画書を提出することが必要となる。

地方公共団体は、地域自治会と合意を取り交わすとともに、地域社会に対して資産の監視、及び保護・管理・整備公開に関する提案の申し出を求めている。

イコモスはさらに、締約国が次のことを考慮することを勧告する。

- 資産の名称を「平泉一仏国土（浄土）を表す仏堂・庭園」に変更すること。
- 金鷄山と他の4つのアンサンブル（仏堂・庭園）との間の阻害のない展望を維持すること。

- Subject any proposals for major road improvements to Heritage Impact Assessments for their impact on the attributes of outstanding universal value, including the visual surroundings of the individual sites;
- Submit any proposals for re-excavating and re-instating the two buried gardens at Chûson-ji and Muryôkô-in Ato to the World Heritage Centre for assessment by ICOMOS and consideration by the World Heritage Committee in line with paragraph 172 of the *Operational Guidelines*;
- Protect actively the buried archaeological resources;
- Put in place a visitor management strategy based on a detailed study of the carrying capacity of the various sites.

- すべての大規模な道路改修の提案に当たっては、個々構成資産の周辺環境の見え方を含め、顕著な普遍的価値の属性に対する影響を計る「遺産影響評価 (Heritage Impact Assessment)」を行うこと。
- 中尊寺及び無量光院跡の2つの地下に埋蔵されている庭園の再発掘調査及び再生（修復）に当たっては、『世界遺産条約履行ための作業指針』第172項に基づき、イコモスによる評価及び世界遺産委員会による検討のための計画書を世界遺産センターに提出すること。
- 地下に埋蔵されている考古学的な情報資源を積極的に保護すること。
- さまざまな場所の受容力に関する詳細な研究に基づき、来訪者に関する管理戦略を適切に定め、実施すること。

(仮訳)

参考資料6 「平泉」の世界遺産一覧表への記載に係る世界遺産委員会決議 (決議 35COM 8B.30)

2011年6月の第35回世界遺産委員会の決議は以下のとおりである。

決議 35 COM 8B.30

世界遺産委員会は、

1. 文書 WHC-11/35.COM/8B 及び WHC-11/35.COM/INF.8B1 を審査した結果、
2. 締約国が、イコモス及び世界遺産委員会の勧告に厳密に従って、わずか3年で「延期」資産について素晴らしい改定を行ったことに対して称賛し、
3. 評価基準(ii)及び(vi)に基づき、構成資産である柳之御所遺跡を除外して、「平泉—仏国土(浄土)を表す建築・庭園及び考古学的遺跡群—」(日本)を世界遺産一覧表に記載し、
4. 以下の顕著な普遍的価値の言明を採用する。

総合的所見

平泉の4つの浄土庭園は、そのうち3つが神聖な山である「金鶏山」に焦点を合わせており、浄土思想の理想と、庭園・水・周辺景観の結びつきに関する日本古来の概念と融合を例証している。浄土庭園のうち2つは、発掘調査により発見された多くの詳細事項に基づき復元されたものであり、他の2つは地下に埋蔵されたまま残されている。短命であった平泉の都市は、11世紀～12世紀の日本列島北部領域における政治・行政上の拠点となり、政治的・経済的に京都と拮抗していた。4つの庭園は、当時の支配氏族の北方地域における一族であった奥州藤原氏により、現世における仏国土(浄土)の象徴的な表現、つまり池泉・樹林・金鶏山頂と関連して仏堂を周到に配置することにより実体化した理想郷の光景として造営された。重厚に金箔を貼った中尊寺の仏堂は、12世紀から残る唯一のものであり、支配氏族の巨大な富を反映している。

平泉の大半は、政治・行政上の地位を失った1189年に滅んだ。それは、平泉のめざましい繁栄と顕著な富を表すと同時に、その急速で劇的な没落を示すものであり、多くの詩歌を喚起する素材となった。1689年に俳人の松尾芭蕉は、「三代の栄耀一睡のうちにして…」と記した。このかつての巨大な(政治・行政上の)拠点に存在し、12世紀から残存する浄土庭園を伴うこの4つの寺院の複合体及びそれらと聖なる金鶏山の関係は、平泉の財力と権力を反映する類い希なる集合であり、日本の他の都市の仏堂や庭園にも影響を与えた計画・庭園の意匠設計に関する独特の概念を表している。

評価基準（ii）

平泉の寺院と浄土庭園は、アジアから仏教とともにもたらされた作庭の概念が、日本古来の自然信仰（神道）に基づいてどのように進化したか、そして結果的にそれが日本に独特の計画、庭園の意匠設計の概念へとどのように発展を遂げたかを顕著に明示している。平泉の庭園と仏堂は、その他の都市の庭園・仏堂にも影響を与え、特に鎌倉には中尊寺に基づく仏堂のひとつが存在した。

評価基準（vi）

平泉の浄土庭園は、東南アジアへの仏教の普及及び日本に固有の自然信仰の精神と阿弥陀如来の極楽浄土思想との具体的で固有の融合を明確に反映している。平泉の仏堂と庭園の融合の複合体から成る遺跡群は、現世における仏国土（浄土）を象徴的に明示している。

完全性

資産は、浄土庭園を伴う仏堂の複合体、及びそれらと視覚的な結び付きを持つ聖なる山（金鶏山）を包含している。中尊寺・毛越寺・観自在王院跡・金鶏山は視覚的な結合を完全に保持しているものの、無量光院跡では家屋群及びその他の構造物（道路など）が負の影響を持つ。仏堂と金鶏山との間の視覚的な結合は、緩衝地帯にあたる推薦資産の区域の外側の範囲にまで及んでいる。仏国土（浄土）の宇宙（コスモロジー）に関する空間的な見え方を保護するためには、これらの結合の空間的な完全性を保持することが必要である。

真実性

発掘された遺跡の真実性については、揺るぎがない。庭園群のうち2つは復元されたものであり、復元作業は建築及び植物に関する物証の厳密な分析により実証されている。現存する構造物のうち、主たる建築である中尊寺金色堂は顕著な遺存物であり、材料・構造の真実性を保証する卓越した技術により保全されてきた。しかしながら、風景上の仏堂の真実性は、現在、周囲を囲うコンクリート造の覆屋によって、一定程度損なわれている。価値を伝える資産の能力を維持するためには、4つの寺院が浄土思想の深遠な理想との関連性を畏怖の念をもって認識できるように維持されることが不可欠である。

保護及び管理に必要な措置

資産とその緩衝地帯は、史跡・特別史跡・名勝・特別名勝に指定されており、良好に保護されている。構成資産間の展望と保護及び構成資産の周辺環境の保護は、たとえ各構成資産が観想のオアシスとなるとしても、景観との関係を意味深く明示できる構成資産の能力を保証する上で極めて重要であろう。岩手県及び関係地方公共団体は、資産の

包括的な管理体制を整備するために、岩手県世界遺産保存活用推進会議を設置した。この会議は、平泉の考古学的遺跡群の調査・保存のための指導委員会の専門家による助言を受ける。

包括的保存管理計画は、2007年1月に完成・実施されており、2010年1月に改訂された。本計画に示された地下に埋蔵されている2つの庭園の再生・修復に当たっては、『世界遺産条約履行のための作業指針』第172項に基づき、イコモスの評価及び世界遺産委員会の判断のために、世界遺産センターに実施・企画書を提出することが必要となろう。地方公共団体は、地域自治会と合意を取り交わすとともに、地域社会に対して資産の監視と、保護・管理・整備公開に関する提案の申し出を求めてきている。

5. さらに、締約国が次の事項を考慮することを勧告する。
 - a) 金鶏山と他の4つのアンサンブル（仏堂・庭園）との間の障害のない展望を維持すること。
 - b) すべての大規模な道路改修の提案に当たっては、個々の構成資産の周辺環境の見え方を含め、顕著な普遍的価値の属性に対する影響を計る「遺産影響評価(Heritage Impact Assessment)」を行うこと。
 - c) 中尊寺及び無量光院跡の2つの地下に埋蔵されている庭園の再発掘調査及び再生(修復)に当たっては、『世界遺産条約履行のための作業指針』第172項に基づき、イコモスによる評価及び世界遺産委員会の判断を受けるために、世界遺産センターに計画書を提出すること。
 - d) 地下に埋蔵されている考古学的な情報資源を積極的に保護すること。
 - e) 種々の構成資産の受容力に関する詳細な研究に基づき、来訪者に関する管理戦略を適切に定め、実施すること。

参考資料7 「平泉 - 仏国土(浄土)を表す建築・庭園及び考古学的遺跡群 - 」 遺産影響評価基準等策定検討委員会設置要綱

(設置)

第1 「平泉 - 仏国土(浄土)を表す建築・庭園及び考古学的遺跡群 - 」(以下「平泉」という。)の顕著な普遍的価値(以下「OUV」という。)が、開発行為等によって受ける影響を評価(以下「遺産影響評価」という。)するための基準等の検討を行うため、「平泉」遺産影響評価基準等策定検討委員会(以下「策定委員会」という。)を置く。

(所掌事務)

第2 策定委員会の所掌事務は、次のとおりとする。

- (1) 「平泉」のOUVに係る分析等に関すること。
- (2) 想定される開発行為が「平泉」のOUVに与える影響の評価等に関すること。
- (3) その他遺産影響評価基準の策定等に関すること。

(組織)

第3 策定委員会は、委員3人以内をもって組織し、委員は、世界遺産等に関する専門家、有識者のうちから世界遺産平泉保存活用推進実行委員会委員長が任命する。

2 委員の任期は、委嘱の日から令和2年3月31日とする。

(委員長)

第4 策定委員会に委員長を置き、委員の互選とする。

2 委員長は、会務を総理し、会議の議長となる。

3 委員長に事故があるとき、又は委員長が欠けたときは、委員長があらかじめ指名する委員が、その職務を代理する。

(会議)

第5 策定委員会は、委員長が招集する。

2 策定委員会は、委員の半数以上が出席しなければ会議を開くことができない。

3 策定委員会の議事のうち決定を要する事項がある場合は、出席委員の過半数で決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

(意見の聴取)

第6 策定委員会は、必要に応じて関係者の出席を求め、その意見を聴くことができる。

(庶務)

第7 策定委員会の庶務は、世界遺産平泉保存活用推進実行委員会(以下「実行委員会」という。)事務局において処理する。

(補則)

第8 この要綱に定めるもののほか、策定委員会の運営に関し必要な事項は、実行委員会が別に定める。

附 則

この要綱は、令和元年6月4日から施行する。